

同窓会報

No.23



豊橋技術科学大学



インキュベーション施設



2006

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問

学長 西 永 頌

本学は、平成18年10月に創立後30年の節目を迎えます。同窓生の数も1万人近くになり、企業、大学、高専、官公庁等の第一線で活躍されています。本学に、教員として残っておられる方もかなり増えてきていますが、すでに教授になられた同窓生も3名おられ、それぞれ学内外で大活躍しておられます。

また、創立30周年記念事業として、記念式典、記念誌の発行、記念講演会の開催などを計画しており、そのための募金活動も開始しようとしています。式典は、同10月6日(金)に行なう事を予定していますので、同窓生の皆さんにもこれを機会に是非大学にお出かけ下さり、皆さんの母校が最近どのように発展しているか直接ご自分の目で確かめていただくと大変うれしく存じます。

本学は国立大学法人の中では小規模な大学ですが、小粒でもキラッと光るすばらしい大学です。文科省科学研究費の教員一人当たりの額は全国約720大学の内16位(朝日新聞大学ランキング2006)です。科学研究費は私立大学も含め全国の教員が自分の研究に対する研究費助成の申請書を書き、それをもとに厳正な審査が行なわれ決定されるもので、この採択状況は大学の研究レベルを示しています。さらに、本学は文科省の21世紀COEプログラムにおいて2件採択されています。国立大学約90大学の内、約半数の大学がCOEを一件も獲得できていないという状況にあって、本学のような小規模単科大学が2件採択されているというのは、特筆に値します。また、教育面でも、COEに相当するGP(Good Practice)が2件採択と頑張っています。

さて、本学も国立大学法人となり、1年半を過ぎ

ようとしています。“法人化ってなんだったの?” “何が変ったの?”とは、良く受ける質問です。今は、あまり変ったように見えなくても、国立大学の設置形態が、国の一機関から独立の法人に変わりましたので、この変化が今後いろいろな面で具体的に現れてくると思います。

一番わかり易いのは、大学の建物のことです。今までは、すべての建物は国の建物でしたから、大家は国です。建物が傷み修理が必要なとき、新しい建物が必要になるとき、いずれも大家に頼んで修理や増築をお願いしてきました。ところが法人化後は、大学の建物は職員宿舎(旧官舎)や学生宿舎を含めて本法人のものになりました。そうになると、大家がいなくなり、修理は本法人の仕事になってしまいました。勿論、建物修理費のある程度は、国が予算化していますが、じゅうぶんではありません。また、建物予算を増やすよう要求するのは上の事情から困難です。

アメリカの大学には、寄付者の名前をつけた、研究用建物、教育用建物、学生宿舎、図書館等が良く見られます。日本でも、そのような時代が直ぐそこまで来ているように思います。同窓生の皆さんの内、事業で成功された場合など、後輩のために、また将来の技術科学教育のために建物をご寄付いただくのはいかがでしょうか。寄付者の名前をつけた建物のみならず、寄付者の名前を付した奨学金など、今後、是非お考え頂たく思います。

皆さんにも、ご協力いただき設立された㈱TCI(Toyohashi Campus Innovation)は、このたび日本で41番目の承認TLOになりました。皆さんにも、ご活用いただき、産学連携活動の拠点として発展して行くことを願っています。

第一工学系

機械システム(旧エネルギー)工学系より

学内近況報告

機械システム工学系 内山 直樹

卒業生・修了生の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。国立大学法人化後2年目を迎え、私ども機械システム工学系では、本年度より系長にご就任された上村正雄先生を中心に、教職員一同、より一層教育研究活動に勤しむ毎日を送っております。

教職員の移動に関しましては、野田進先生が、本学に新たに設立された未来ビークルリサーチセンターに所属されることになりましたが、本系の教授もご兼任され、これまでどおり本系の教育研究活動にご尽力いただいております。他に教職員の移動はなく、表のとりの構成となっております。

就職状況につきましては、これからの時代は景気動向が改善の兆しをみせても労働市場の状況は好転しないなどといわれる中、本系におきましては、おかげさまで例年以上に良好な状況であり、これもひとえに卒業生・修了生の皆様のご活躍によるものと考え、この場をお借りしましてお礼申し上げます。

さて、今日では「創造性教育」や「情報リテラシー教育」の必要性が強く叫ばれておりますが、本系においてもこのような状況に対応すべく、今年度より「機械工学創造実験」および「機械情報処理実習」という授業科目を新たに開講いたしました。

前者は、これまでの学部3年次生を対象とした「工学実験」の授業時間の第1学期分を利用し、2年次からの進級生および3年次編入生がお互いまだ打ち解けていない状況において、コンテスト形式の課題を達成すべく協力して作業を進めていくものです。具体的には、ご存知かと思いますがLego Mindstormsという

教材を用い、3～4人程度のグループに分かれて機構学やプログラミングに関する演習的な課題をこなした後、いわゆるロボコン形式の課題に挑戦いたします。この間、毎週の報告書の作成や数回のプレゼンテーション形式による説明が課せられ、学生さんにとっては幾分慌しい授業であったような気がいたします。

後者につきましては、学部4年次生を対象に、「ワードプロセッサ」、「表計算」、「グラフ作成」、「プレゼンテーション」などの基本的なソフトウェアの操作法の習得、また情報機器を利用して必要な情報収集を行う能力の養成を目的としまして、各研究室において指導が行われています。この授業では、例えば、特別研究に関連する資料を計算機を用いて検索・収集し、これを上記のソフトウェアを利用して指定された形式にまとめ、内容を発表することなどが要求されますが、資料作りのために予想以上に時間を要し、苦闘している学生さんも見受けられました。

以上のような授業の是非については意見の分かれるところかと思いますが、現段階では学生さんより好意的な意見をいただくことも少なくなく、私事で恐縮ですが授業の一部に携わったものとして、ひとまず胸をなで下ろしております。

今後とも卒業生・修了生の皆様のご意見を拝聴し、より良い教育カリキュラムへの見直しを行っていきたく存じますので、アンケートなどの機会がございましたら、何卒ご協力いただきたくお願い申し上げます。

末筆ながら卒業生・修了生の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

平成16年度就職先一覧

修 士	
(株)タダノ	気象庁(富山地方気象台)
川崎プレジジョン	愛三工業
吉川工業	日立製作所
ペンタックス	光洋精工(株)
ソニーイーエムシーエス	日精イーエスピー機械(株)
日本精工	デンソー
三菱自動車工業	山陽マシーン(株)
(株)ベルソニカ	アスモ
三井造船	高砂電気工業
日立金属工業	明治乳業
富士医療器	旭エンジニアリング
ファナック	武蔵精密工業
三浦工業	ハーモニックドライブシステムズ
コベルコ科研	OSG
王子製紙	森精機
水戸富士工機	菊川工業
クラブツーリズム(株)	トヨタマックス
フタバ産業	トーマコーポレーション
愛三工業	アイシン化工
太陽精機	ダッド
日産テクノ	日本トレクス
村上開明堂	モリック

学 部	
第一精工(株)	ロゼフテクノロジー
東部ガス	山陽特殊製鋼(株)
安永	浜名エンジニアリング
日立造船	アイホー
マツダ(株)	公務員(海上自衛隊・舞鶴)
ブリヂストン	大岡技研(株)

[第一講座：熱・流体工学講座]

教 授：三田地紘史, 日比昭, 北村健三

助 教 授：中川勝文, 柳田秀記, 鈴木孝司

助 手：伊藤高啓, 山本高久

[第二講座：エネルギー変換工学講座]

教 授：蒔田秀治, 高木章二, 野田進(未来ビークルセンター)

助 教 授：鈴木新一

講 師：内山直樹

助 手：関下信正, 佐野滋則

[第三講座：機器設計学講座]

教 授：本間寛臣(工学教育国際協力研究センター),
上村正雄(系長), 河村庄造

助 教 授：関東康祐

講 師：竹市嘉紀, 感本広文

助 手：ホサイン・MD・ザヒド(研究基盤センター)

教務職員：グナワン・フェルギアント・エフェンデ

[技 官] 徳増学, 神谷昌宏

[事 務] 半田恵子, 野亦真理子

第1工学系同窓会事務局より

H16年度収支報告

収 入	
前年度繰越金	3,896,320
終身会費(H15年度入会者計50名分)	500,000
追加入会費(3名, 振込手数料等差引後)	72,160
利息(定期預金利子+普通預金利子)	500
収入合計	4,468,980

支 出	
会報印刷費	45,420
会報発送関連費	97,940
フォーラム・イン・東京旅費(2名分)	39,200
アルバイト代	19,600
次年度繰越金	4,266,820
支出合計	4,468,980

研究室だより

熱工学講座・三田地研究室

機械システム工学専攻 2年 大江 謙 介

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様がそれぞれの職場の最前線で、大いに活躍しておられることと存じます。

現在、熱工学研究室の三田地研究室は、三田地紘史教授と山本高久助手の下、修士課程7名、学部4名の計11名で日々研究に取り組んでいます。

研究としては、(1) 沸騰水型軽水炉による233Uの生産、(2) 加速器熔融塩炉の燃焼特性に関する研究、(3) Puを用いる3領域炉心熔融塩炉の研究、(4) 環状2炉心熔融塩炉の定格炉心特性に関する研究の4つのテーマを中心に研究を行っております。(1)では熔融塩炉に付加するための233Uを、現在稼動している沸騰水型軽水炉で生産できないかを、(2)では加速器熔融塩炉を用いて燃料増殖を、(3)ではPuを用いて熔融塩炉を稼動させ、出力密度を向上できないかを、(4)では環状2炉心熔融塩炉を伝熱・流動の観点から解析を行い、新たな可能性を目指して、進歩する技術に対応するべく研究に励んでいます。

研究成果としましては、発表活動を盛んに行っており、原子力学会や伝熱学会などで発表を行っております。これからも多くの優れた研究成果を発表するために研究を頑張っていきたいと思っています。

また、研究室では、新入生歓迎会、バーベキュー、

忘年会、追い出しコンパなどのイベントを行っており、さらに研究室での交流を深めるために、この他にもさまざまな企画を考えております。研究室の近況、研究成果等の詳しい情報は研究室のHP (<http://msr.mech.tut.ac.jp/top.html>) に記載されていますので一度是非ご覧ください。

卒業生・修了生の皆様におかれましては、豊橋近隣にお越しの際は研究室へお立ち寄りくださり、激励、ご助言等いただけましたら光栄です。研究室一同、心よりお待ちしております。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍・ご発展を心よりお祈りいたしまして近況報告とさせていただきます。



高木研究室の近況

機械システム工学専攻 1年 池田 良一

卒業生・修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましてはそれぞれの職場にてご活躍のことと存じます。現在、本研究室には高木章二教授と内山直樹講師、佐野滋則助手の下に、修士二年生6名、修士一年生5名、学部四年生八名、計15名の学生が在籍しており、日々皆で協力しながら研究に励んでいます。

現在、本研究室では、主として以下の研究テーマに取り組んでいます。

- (1) 機械システムにおけるアドバンスド制御法の開発と応用
- (2) 空気圧サーボシステムのロバスト適応制御
- (3) ロボットマニピュレータやクレーンシステムのロバスト振動制御
- (4) 機械システムの適応非線形摩擦補償

(1)では、適応制御やロバスト制御などを様々な機械システムに応用しています。(2)では、産業界において広く利用されている空気圧システムの用途拡大のため



サーボシステムによる位置追従制御が必要となるため、それを組み込む際に性能劣化の要因となっている非線

形特性と非線形摩擦に対応するための制御法の構築を行なっています。(3)では、旋回式クレーンやSCARA型ロボットなど振動を有する機械システムに対して、フィードフォワード制御とフィードバック制御の二つの観点から振動抑制の研究を進めています。(4)では機械システムの摩擦特性を考慮した適応制御に関する研究を行っています。その他近年のロボット開発に関連する視覚ロボットや聴覚ロボットの研究や人間共存型ロボットの研究等も行なっています。なお研究室の詳細につきましては研究室HP (<http://www.ctrl.mech.tut.ac.jp/>)に掲載しておりますので、合わせてご覧ください。

最後になりましたが、皆様の今後のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

構造健全性工学研究室

機械システム工学専攻 2年 大和 正実

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様がそれぞれの職場にて大いにご活躍なされていることと存じます。

現在、本研究室は本間寛臣教授と教務職員のGunawan氏を中心として、修士6名、学部4名、インドネシアおよびロシアやコロンビアの留学生8名の計18名という大人数で構成されています。昔と変わらず留学生が多いため日頃から英語で会話をし、様々な国の文化を学べる国際的な研究室です。また、研究に対する熱意と努力も十分で定期的なゼミを開くことで、学生一同の専門知識の更なる習得を目指しております。

当研究室で現在取り組んでいる研究テーマをいくつか紹介します。

- (1) 破壊靱性に及ぼす荷重速度の影響
- (2) 結石の超音波破壊試験に関する基礎的研究
- (3) 不確定要因が介在する複合的システムにおける信頼性評価

(1)では汎用有限要素法コードABAQUSを用いて解析を行い、荷重速度の影響について調べています。(2)では現在ピエゾ法で発生させた超音波をマイクロハイドロフォンにより求めた焦点距離で材料を破壊させその形態を調べています。(3)では主にヒューマンファクタが不確定要因として介在している複合的システムについて、確率論的な概念をとり入れた解析手法を用



いることでその信頼性について評価することを試みています。

研究室の行事では新入生歓迎会や忘年会、修了生の追い出し会はもちろんのこと、ソフトボールの練習やバーベキュー、花見や研究室旅行など常に先生を含めた研究室全員で楽しんでいます。

卒業生、修了生の皆様におかれましては、豊橋にお越しの際は、お気軽に本研究室にお立ち寄り下さい。皆様の在学中のお話や、卒業・修了後の貴重な体験などをお話いただければ光栄です。研究室一同、心よりお待ちしております。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご躍進、ご発展を心よりお祈り申し上げます。

第二工学系

豊友会

-for you-

(生産システム工学系同窓会会報)

系長あいさつ

生産システム工学系 系長 川上 正 博

今年の求人状況から見るとかなり景気は回復しているように思えますが、卒業生の皆さんはいかがお過ごしですか。さて、昨年度から本年にかけて、多くの教員異動がありましたので、そのお話から始めます。昨年10月から、計測システム研究室に章忠教授がいらっしゃいました。12月には、材料保証研究室の森田先生が佐賀大学工学部へ転出されました。本年3月には、計測システム研究室の堀畑先生が日本大学歯学部へ、医療福祉材料研究室のグナワルマン先生がインドネシアの母校へ、武田先生が独立法人医薬品医療機器総合機構へ転出されました。それに代わり4月からは、精密加工研究室に柴田助教授、システム創製研究室にラファエル助教授が着任されました。10月からはシステム制御研究室出身の今村君が生産計画学講座の助手となります。9月には精密加工研究室の水上先生が独立法人医薬品医療機器総合機構へ転出されました。さらに、10月には医療福祉材料研究室の新家先生が東北大学金属材料研究所へ、11月にはシステム創製研究室の柳先生が金沢大学経済学部へ転出の予定です。このように、人事異動が活発であることは、生産システム工学系がアクティブである証として、喜ばしいことと感じています。また、教授、助教授に2名の外国の方をお迎えしていることも、本系がグローバルスタンダードを目指している証と考えております。

さて、前報でJABEEの本審査を受けることをお知らせしましたが、その結果は2年間の暫定認定ということでした。プログラム名は生産システム工学課程で、機



械および機械関連分野ということです。本来の認定期間は5年ですが、この2年間にWと判定された六項目につき再検討をして、来年再度審査を受けます。Wとは必須改善項目を意味します。それに合格すればさらに3年間の認定が受けられるということになります。

JABEEというのは、教育界におけるISO9000とも見られ、ある教育目標を明確に設定し、そのプログラムの修了者はその目標を確実にクリアーしていることを証明出来なければならず、そのためのシステム構築が求められています。ですから、教える方は教えたことが確実に伝わっているかを常にチェックし、もし不十分であれば改善する努力を常に求められています。そして、実際に努力していることの証拠を残すことが求められています。先生に対する要求も厳しいですが、学生さんも今まで以上に勉強しないと単位が取れないこととなります。先生は絶対に下駄を履かせてくれません。学生さんにとって良いことは、このコースを修了したことにより技術士の第一関門である技術士補の試験が免除されるということです。しかるべき実務経験を4年以上積んだ後に、即、技術士の試験が受けられます。この動きは教育のグローバルスタンダード化でもあり、Washington Accord加盟の国々の大学の卒業生の能力規格をそろえるという意味合いがあります。機械工学分野ではあまり重要性は認められていないようですが、土木の分野では、入札が世界規模で行われており、その時の技術的な交渉にはそのようなスタンダードが必要とのことです。教える方も教わる方も住みにくい世の中になりましたが、結果は良い方向に向いていますので、お互いに頑張りましょう。

学内近況報告

塑性加工研究室 牧 清 二 郎

卒業生、修了生の皆様、お元気ででしょうか。ご健勝にて各職場においてご活躍のことと思います。大学の方は、系長を務められている川上先生を中心に、教職

員一同、教育と研究に励んでおります。系としては、入学状況、就職状況とも例年以上に良好のようです。これらは、皆様方の各方面でのご活躍があつてのこと

と思います。2系では昨年度（平成16年度）、本学では真っ先に、JABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受け、合格し、2年間の認定をいただきました。このJABEEについては恒常的に認定が得られるよう、職員一同、今後とも頑張っていく所存です。これに関連して、皆様にアンケートをお願いするようなことがあるかと思いますが、その折には、よろしくごお願い申し上げます。



さて、この1年間の教職員の異動などについて、簡単にご報告いたします。職員の移動では、平成16年10月1日付けでシステム創製研究室の樋野励講師が名古屋大学大学院工学研究科機械理工学専攻に転出されました。そして平成17年に入り、1月1日付けで医療・福祉材料工学研究室の森田繁樹教務職員が佐賀大学理工学部機械システム学科に助手として転出されました。3月には、医療・福祉材料工学研究室内のGunawarman助手がインドネシアに帰国され、4月1日付けで計測システム研究室の堀畑聡講師が日本大学松戸歯学部物理学教室に、医療・福祉材料工学研究室内の武田淳仁助手が独立行政法人医薬品医療機器総合機構に、それぞれ転出されました。同じく4月1日付けで、柴田隆行助教授が精密加工研究室に、Rafael Batres助教授がシス

テム創製研究室に、安部洋平助手が塑性加工研究室に赴任されました。なお、現在の系事務室（総務部総務課学系係）は、昨年度と同じく、大宮明代さんです。その他の2系の近況につきましては、ホームページ（<http://www.pse.tut.ac.jp/>）で随時報告しておりますので、ご覧下さい。

末筆ながら、皆様のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。なお、近くにお越しの際は、大学にもお立ち寄りいただき、近況等をお話し下さいますようお願い申し上げます。

【材料工学講座】

教 授：川上正博（系長）、梅本実、新家光雄
助教授・講師：竹中俊英、土谷浩一、戸田裕之、横山誠二
助 手：赤堀俊和、戸高義一（研究基盤センター）

【生産計画学講座】

教 授：清水良明、寺嶋一彦（学長補佐）、
章忠（系長補佐）
助教授・講師：三宅哲夫、Rafael Batres、三好孝典
助 手：柳在圭

【加工学講座】

教 授：堀内宰、森謙一郎、福本昌宏（未来ビークル
リサーチセンター長）
助 教 授：牧清二郎、安井利明、柴田隆行
助 手・技 官：水上良明、安部洋平、小楠和彦、椿正己
（平成17年8月現在）

着任のご挨拶

生産システム工学系 助教授 Rafael Batres（バトレス ラファエル）

4月1日付けで生産システム工学系の助教授として採用されました。平成10年から東京工業大学資源化学研究所で研究、学生の研究指導を行って参りました。私の専門分野はプロセスシステム工学です。プロセスシステム工学ではコンピュータを使用し、製品の概念から廃棄まで、安全性、環境、品質、コスト、



ユーザ要求を含む全ライフサイクルを考慮した上でシミュレーションを行ったり、数値解析による分析等を行います。システム創製研究室では、清水先生と学生とのシナジーによって安全性、バイオマス工程設計、などの研究を続けております。教育の面では学生達の「考える力」を大事にしながら、積極的に実際問題の解決に取り込める人材の育成に全力を尽くしたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

着任のご挨拶

生産システム工学系 助教授 柴田 隆 行

4月1日付けで、生産システム工学系の助教授として着任した柴田隆行です。出身は北海道の小樽です。北海道大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程を修了し、住友電気工業株式会社に2年間勤務し、主に気相合成ダイヤモンド薄膜の生成メカニズムに関する研究に従事しました。その後、北海道大学（精密工学科）の助手として10年間、茨城大学（機械工学科）の助教授として4年間勤務しました。その間、軟質金属および脆性材料の超精密ダイ



ヤモンド切削機構の解明に関する基礎研究を行い、北海道大学から博士（工学）の学位を取得しました。

また、1993年頃からマイクロマシン（MEMSと呼ばれています）の研究にも興味をもち、基礎研究にとりかかりました。現在では、半導体技術をベースとしたマイクロマシン技術の開発とそれを利用したMEMSデバイスの開発を中心に研究を行っています。さらに、海外の大学（英国のインペリアルカレッジ、スイスのヌーシャテル大学）で学んだことをベースにして、マイクロ化学分析システム（ μ TAS）や細胞を取り扱うマイクロバイオデバイス（BioMEMS）の開発にも

興味をもって取り組んでいます。
微力ではございますが、本学の教育・研究の発展に

少しでも寄与できればと考えております。卒業生・修了生の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

着任のご挨拶

生産システム工学系 助手 安部 洋平

4月1日付で生産システム工学系の助手として着任しました安部洋平です。今春、本学大学院博士後期課程を修了し、塑性加工研究室の助手となりました。木更津工業高等専門学校機械工学科を卒業して本学の生産システム工学課程3年へ編入学し、さらに修士、博士と進学して、今年の3月に博士課程を無事修了することができました。



私は、学部、修士と博士課程から乗用車用スチール

ホイール、自動車用エンジンバルブ、セルフピアッシンググリベットによる接合など自動車用部品の成形法について研究しています。研究は地域の企業との共同研究が多く、刺激の多い毎日を過ごしています。まだ助手になりたてのため未熟な面もあり、周りの先生方に助けられ、学生の皆さんとともに日々勉強しています。

最後に多忙な日々をお過ごしの方の卒業生・修了生の皆様のご健康と益々のご発展を心から願い、挨拶に代えさせていただきます。

研究室だより

システム創製研究室の近況報告

生産計画学講座 助手 柳 在 圭

卒業生の皆様、お元気でしょうか。社会人としての自覚を持ってそれぞれの職場でご活躍されていることと存じます。現在、システム創製研究室では、清水良明教授を中心として、バトレス ラファエル助教授、柳在圭助手、中尾佳子秘書のスタッフと、博士1、2年生が各々1名で、修士2年生5名、修士1年生8名、学部4年生6名の総勢25名で構成されています。

主な研究テーマは、次世代型生産システムの創製（環境調和、ライフサイクル、自律分散、創発など）とソフト最適化手法の意思決定支援への援用（多目的最適化、メタヒューリスティック、ニューラルネットワークなど）に関する研究をはじめ、生産システムの合理化・柔軟化（自律分散型スケジューリングシステム、JIT、Pull-Push生産方式など）と設計知のモデル化とその有効活用（多次元モデリング、オントロジーなど）に関する研究を行っております。研究室の近況、研究内容などの詳しい情報や同窓会関連は、下記の研究室ホームページに記載されていますのでご覧ください。
<http://sc.pse.tut.ac.jp/>

研究室のレクリエーションは、新歓コンパ、夏のバー

ベキュー、橋爪杯（バレー&バスケット）、忘年会、新年会、追い出しコンパなどを行っています。また、本年度の嬉しい出来事としては、2系内のソフトボール大会で本研究室が4連覇を果たしたことがあげられます。これは、日ごろから高めていた研究室の結束によるものだと思っております。

卒業生は電気、情報処理、化学、機械、自動車関連など幅広い分野の会社へ就職しています。最後になりましたが、卒業生のそれぞれの分野で更なるご活躍を心よりお祈りしております。



材料機能制御研究室の近況報告

材料工学講座 修士1年 山崎 歩見

卒業生・修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。それぞれの立場でご活躍していることと思います。

材料機能制御研究室は現在、梅本実教授、土谷浩一

助教授、戸高義一助手、秘書の荒井さんのスタッフ4人と博士課程2人、修士課程14人、学部学生8人の学生24人、合計28人が在籍しています。

本研究室の主な研究内容は、強加工による鉄鋼材料およびアルミニウム、チタンなど軽金属のナノ結晶粒化、ナノ結晶粒組織形成のメカニズム解明、無毒性熱電材料の開発、共析鋼における強加工によるセメントタイトの分解、TiNi形状記憶合金、強磁性形状記憶合金、ホイスラー系ハーフメタル材料の特性などです。詳しい内容はホームページをご覧ください。<http://martens.pse.tut.ac.jp/>

研究室の行事としては、4月に新入生歓迎バーベキュー、7月に研究室旅行、12月に忘年会、1月におでんパーティー、3月には追い出しコンパなどを行っており、毎年無礼講で盛り上がっています。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様方のご健康、益々のご活躍を祈念すると共に、今後とも材料機

能制御研究室をご支援下さいますようお願い申し上げます。我々も一致団結し、頑張っていきたいと思います。近くにお越しの際は是非研究室にお立ち寄り下さい。



接合加工研究室の近況報告

加工学講座 助教授 安井 利明

卒業生・修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか？接合加工研究室は、福本昌宏教授の下、私、椿正己技術専門職員の3名のスタッフで研究教育にあたっています。研究室には、博士課程1名、修士課程15名（中国からの留学生1名、韓国からの留学生1名）、学部生8名の計24名の学生が在籍しております。溶射プロセスと摩擦攪拌接合を中心とした以下のテーマで研究活動を精力的に行っています。

1. 溶射における粒子偏平・凝固現象の解明
2. 溶射によるナノ組織金属間化合物皮膜の作製
3. 溶射による光触媒皮膜創製の実用化実験
4. 反応性プラズマ溶射による非酸化物セラミックス成膜
5. 摩擦攪拌接合法による異種金属接合
6. 新しい溶射技術の開発研究

研究以外については、以下の在校生の報告をお聞きください。「新歓コンパ、夏の旅行、忘年会、追い出しコンパなどの恒例行事はもちろん、系で行っているサッカー、ソフトボール、バスケットボール等の大会にも積極的に参加しています。特に忘年会は一泊二日で渥

美半島へ行き、皆思う存分楽しむことができました。各行事への研究室メンバーの出席率は高く、研究室の雰囲気也非常に良いと言えます。この雰囲気があるからこそ、皆で協力でき、より良い研究活動が可能になっていると思います。（修士2年石井君談）

最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍を祈念すると共に、今後も研究室をご支援くださるようお願い申し上げます。なお、研究室の詳細についてはホームページ (<http://ajp.pse.tut.ac.jp>) をご覧ください。



豊友会事務局から

平成16年度収支報告

収入の部

前年度繰越金	3,201,696
会費（各系分配金）	660,000
普通預金利息	32
収支合計	3,861,728

支出の部

会報等発送作業代	54,550
会報等送代	136,400
名簿更新作業代	5,000
次年度繰越金	3,665,778
支出合計	3,861,728

豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学 生産システム工学系内
FAX: 0532-44-6690
E-mail: admin-2@tut-ob.org
Home page: <http://www.tut-ob.org>

代表	三好 孝典
会計担当	戸高 義一
会報担当	赤堀 俊和
名簿担当	安部 洋平
ホームページ担当	戸高 義一

第三・第四工学系

電気・電子工学系／情報工学系より

電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

電気・電子工学系

中村 雄一

修了生、卒業生の皆様も、ますますご活躍のことと思います。電気・電子工学系でも本年JABEE取得のための正式申請を行い11月の実地審査に向け準備を進めており、COEも最終評価に向けてプロトタイプの作製に邁進すると共に、将来の研究、教育の更なる発展を目指そうとしております。また学内の各種センターも統合や新設が行われています。本系に関するところでは、この4月より技開センター、分析センター、工作センターが統合し研究基盤センターとなり、インテリジェントセンシングシステムリサーチセンターおよび未来ビークルリサーチセンターが新たに発足しております。

さて電気・電子工学系では本年度も数名の先生方の異動がありました。まず平成17年4月1日に若原昭浩先生が電子デバイス大講座教授に、高尾英邦先生がインテリジェントセンシングシステムリサーチセンター助教授にそれぞれ昇進され、内海淳志先生が研究基盤センター（基礎電気・電子大講座）助手として就任されました。一方、平成17年3月末日をもって電気システム大講座助教授の徐国春先生が退職され湘南合成樹脂株式会社に転出されました。系とセンター間では、いずれも4月1日付で滝川浩史助教授および村上義信助手が技術開発センターから電気システム大講座に、内田裕久先生が基礎電気・電子大講座から研究基盤センター助教授に、穂積直裕先生が電気システム大講座から未来ビークルリサーチセンター助教授に異動となっています。

事務室では、4月28日付で系事務補佐員の島津和代さんが退職され、その代わりとして浅井なをみさんが新しく系事務補佐員になりました。

いよいよ豊橋技科大でも学内再編の動きなども出てきており、今後更なる変革も予想されますが、教職員一同、今まで以上に社会に貢献できる教育・研究活動を行うよう精進してまいりたいと思います。

情報工学系

福村 直博

卒業生、修了生のみなさん、お元気でしょうか。今年の夏はどこでも総選挙の話題で一色となった感があり、様々な面での変革への取り組みが叫ばれておりますが、豊橋技科大も新たに様々な変革に取り組みつづけています。情報工学系においては、昨年度から全教員が分担して資料作成などの準備にとりかかっていましたJABEE申請をこの7月末におこないました。この申請に際しては卒業生、修了生の皆様方にもアンケートなどご協力頂き、厚く御礼申し上げます。今後は10月末に実地審査を受けることになっております。さらにこのJABEE申請作業での議論をもとに、様々な教育環境の改善を情報工学系全体あるいは各教員において行なっております。

また、今年も先生方の異動がございました。まず平成17年3月末日をもって情報処理大講座の金子豊久先生が定年で退職されました。一方、4月には計算法大講座の助手として岡本吉央先生、情報処理大講座の助手として関洋平先生、情報システム大講座の助手として夏井雅典先生、同じく情報システム大講座の教務職員として武田善行先生と、若いスタッフが新たに加わりました。また情報処理大講座の栗山繁助教授が教授に昇任されました。そして、情報システム大講座の和田和千先生が今年2月より1年間の予定で、文部科学省の海外先進教育研究実践支援プログラムにより、アメリカのアイオワ州立大学に滞在されております。

このようにぐっと若返った教職員一同により、今後の内外ともに変革の時代に対応し、本学、そして情報工学系がより発展していくように努力して参りたいと思っております。

電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

◆ 電気・電子工学系

〈基礎電気・電子大講座〉

教授：太田昭男，福田光雄，井上光輝
 助教授：服部和雄，中村雄一，内田裕久^{※1}
 助手：西村一寛，稲田亮史，内海淳志^{※1}

〈電気システム大講座〉

教授：恩田和夫，榊原建樹，長尾雅行
 助教授：穂積直裕^{※2}，乾 義尚，滝川浩史
 助手：村上義信，荒木拓人
 教務職員：桶真一郎
 技官：日比美彦

〈電子デバイス大講座〉

教授：米津宏雄，石田 誠，若原昭浩
 助教授：朴 康司，澤田和明，原田八十雄
 高尾英邦^{※3}
 助手：岡田 浩，古川雄三
 技官：足木光昭

◆ 情報工学系

〈計算機大講座〉

教授：中川聖一，中島 浩，藤戸敏弘
 助教授：秋葉友良，廣津登志夫^{※4}
 講師：北岡教英，小宮常康
 助手：石井利昌，津邑公暁，岡本吉央
 技官：片岡嘉孝

〈情報処理大講座〉

教授：宇野洋二，青野雅樹，栗山 繁
 助教授：中内茂樹，福村直博
 助手：福田浩士，関 洋平

〈情報システム大講座〉

教授：田所嘉昭，横山光雄，梅村恭司
 助教授：後藤信夫，上原秀幸
 講師：和田和千
 助手：夏井雅典
 教務職員：武田善行
 技官：宮脇治雄

◆ 事務官

三輪恵子，松田久乃，丸山利美，浅井なをみ

※1 研究基盤センター
 ※2 未来ビークルリサーチセンター
 ※3 インテリジェントセンシングシステムリサーチセンター
 ※4 情報メディアセンター

◆ 同窓会役員

〈電気・電子工学系〉

西村一寛，稲田亮史，村上義信，内海淳志，
 桶真一郎

E-mail: admin-3@tut-ob.org

〈情報工学系〉

福田浩士，武田善行，野口健太郎（沖縄高専）

E-mail: admin-4@tut-ob.org

平成 16 年度

電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

平成 16 年度決算	
■収入の部	
平成 15 年度繰越金	6,042,219
平成 15 年度終身会費入金分	1,160,000
預金利息	28
収入合計	7,202,247
■支出の部	
平成 16 年度会報発送費	225,910
平成 16 年度会報発送作業費	198,623
小計	424,533
次年度繰越金	6,777,714
支出合計	7,202,247

～退職教員より～

情報工学系 教授 金子 豊久

本校に11年間勤務の後、この3月末に定年退職致しました。在職中は、同窓生の皆様をはじめ、沢山の方からご支援をいただき深く感謝申し上げます。

今までを振り返ってみると、長い旅をしてきたなと思います。米国ニュージャージー州の大学で博士号を取得した後、米国IBMに勤務し、ニューヨーク州、テキサス州、カリフォルニア州と社内で3度転勤しました。その間3軒の家を購入し、また売ったり、米国での生活がどういふものかを体験しました。IBMが日本に研究所を設立に当たり、帰国し研究所のマネジメントに携わりました。多国籍企業IBMの一員として、米国とアジアやヨーロッパの諸外国に出張する機会がありましたし、また本校に赴任してからも研究発表のために欧州を中心に多くの国、町を訪問する機会に恵まれました。総じて言えば現役中は旅行好きの人間であったと言えるでしょう。

また、場所に住むとそこの住人になってしまいました。テキサスではヒューストンに住んでいましたが、野球はアストロ（宇宙）、アメフトはオイラーズ（石油堀）のファンでしたし、カリフォルニア、サンホセの住人になりますと前のことは忘れて、サンフランシスコが近いので、そこの野球チーム（ジャイアンツ）とアメフトチーム（49人衆）のファンになってしまいました。また住んだ場所を中心に観光に出かけました。米国では、行かなかった州は北東部の7、8州だけだと思います。

企業生活を終えた後、本校で教育と研究の機会に携わる幸運に恵まれました。大学に来て感じたことは、大学の自治というのは、自治する労力を伴うものだと言うことです。また大学にはマニュアルがなく、多くのルールが過去に行った経験を踏襲することが多いのも驚きでした。独立法人化後は、改善の様子があるようです。

本校に赴任後、もっともエンジョイしたことは、何にもまして、若い諸君と一緒にあって、情熱を燃やして研究に取り組めたことです。諸君の多くが高専で実際に仕事をやり遂げる技能を備えており、また工業高

校や普通科高校出身の学生もそれに負けじと遂行能力を着け、研究に熱心に取り組んでくれ、多くの研究結果を、国際会議やジャーナル論文を出すことができました。熱心に集中してやれば何とかなるんだということを学んでくれたと思います。二人の外国（中国、バングラデッシュ）からの留学生を迎え博士を出すことができました。

定年退職後の近況ですが、東京虎ノ門にある、企業の重役経験者を中心としたシニアシンクタンクといえる集団に加わり、コンサルタント業を行っております。まだ経験は多くはないのですが、知的所有権とか小企業への経営アドバイスなどに関わっております。自分の知識、経験を基になにかお役に立てばありがたいという気持ちです。また、現在横浜市青葉区の住人ですが、地域の自治とかの業務に積極的に関わることになっています。景観美化のための建築協定が更新の時期を迎え、市や区の役人と一緒に協定書改訂に取り組んでいます。

最後に同窓生の皆さんへの言葉として、人生で良い運は何度か訪れる機会があります。良い機会に恵まれるには、それをやれそうかなと人に思われるだけの実力を付けておく必要があります。必要業務はその機会が訪れたとき一生懸命勉強すれば何とかなるものです。機会に恵まれるには、良い友達を持つのも重要なことでしょう。また健康に気をつけることと交通事故特に自動車事故にあわないように気をつけてください。



家族と一緒に白糸の滝（長野県）を訪れたときの写真（本年8月）

研究室だより

先端スピン・エレクトロニクス研究室

電気・電子工学専攻 修士2年

溝口 真彦

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場において大いに活躍されていることと存じます。

本研究室は磁性研究室として、1978年の開学と同時に現名誉教授の藤井壽崇先生が磁性材料とその応用の研究を目的に設置されました。2000年3月に藤井壽崇先生が定年ご退官になり、井上光輝先生が2代目教授として磁性研究室を主宰されています。井上先生は、藤井先生が示された「磁気を中核に据えた幅広いテーマの追求」を引継ぎ、オリジナリティを重視した研究活動を展開されています。現在は研究室名を変更し、先端スピン・エレクトロニクス研究室として活動中です。

近状といたしましては、井上光輝教授、内田裕久助教授、西村一寛助手のスタッフ3名を中心としてポストドク2名、修士14名、学部8名、秘書2名の計29名で日々研究に励んでおります。その他流動的ではありますが、海外の教授や様々な企業の方々が多く出入りされており、常に世界最先端の研究ができる環境となっています。研究のテーマといたしましては、磁性フォトリソグラフィ、光体積記録、磁気光学空間光変調器、ナノスケール構造体、磁気表面弾性波デバイス等が挙げられます。その他様々な研究テーマがありますが、詳細な状況と情報はHP (<http://www.maglab.eee.tut.ac.jp>)にて公開しております。お時間があるときにでもご覧ください。

研究室の行事としましては春には学部生4年生の研究室配属歓迎会(写真)、夏はビアパーティー、年末には忘年会、年度末には研究室旅行、そして海外から先生が来学される度にウェルカムパーティ等を行っております。月に一度は何らかのイベントが開催され、先生と学生間での親睦を深め、また日頃の疲れをリフ

レッシュしております。

最近で最もホットなニュースは、文部科学省の研究開発委託事業に採択されたことです。これは五年間で総額十五億円程度の研究経費が見込め、今回採択された4件の中にはノーベル化学賞受賞者の野依良治教授や東京大学の小宮山宏総長らが提案者として名を連ねています。このような方々と肩を並べて井上光輝教授がチームリーダーとなり「ナノ構造磁性フォトリソグラフィを用いた超光情報メモリ」を課題に掲げて研究開発を行っていくことが決定しております(詳細HP: http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/07/05072802/002.htm)。このような大きなプロジェクトに採択されたのも、卒業生・修了生の皆様が学生時代に行われた研究成果が基盤となり、前述いたしました現在の研究テーマに結びつき花を咲かせることができた結果だと考え大変感謝しております。

豊橋の近くに来られたときには、是非研究室にお寄りください。研究室一同、皆様のご来校を心よりお待ちしております。最後になりますが、皆様の更なるご活躍とご検討を心よりお祈り申し上げます。



クリーンエネルギー変換工学研究室

電気・電子工学専攻 修士1年

若原 健二

修了生、卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますもって、ご活躍のことと存じます。

現在、本研究室は修士2年が5名、修士1年が4名、学部が3名で構成されています。このうち1名は他大学を卒業後、入学してきました。総勢12名、我々は恩田和夫教授、荒木拓人助手、日比美彦技官のもと日々研究にいそしんでいます。

研究内容は「固体高分子型燃料電池に関する研究」、「水素ポンプに関する研究」「リチウムイオン二次電池及びニッケル水素二次電池に関する研究」の3テーマを中心に研究を行っています。燃料電池グループでは各物性値の測定を行い、定常動作及び非定常動作において電流分布の解析をしています。水素ポンプグループでは、水素分離と昇圧の2つのテーマにおいて単セル、スタックの基礎特性を測定しています。また、二次電池グループでは、電流パルスを用いた交流インピーダンスの測定を行っており、これを燃料電池においても測定しています。週に二度ゼミを行い各自の研究成果や今後の方針などについて話し合い、勉強会では発表者を中心に研究で必要な知識を幅広く吸収し研究室全体のレベルアップを図っています。現在おこなっている研究のほとんどは、先輩方の研究の上に成り立っています

が、2006年度には恩田教授が退官されることもあり、各グループとも結実するため努力しております。

研究室行事として、毎年恒例の夏ゼミ旅行がありますが、今年は和歌山・三重の熊野古道巡りと、別日程で山梨ヘリニアモーターカーの実験線に試乗してきました。熊野古道で世界遺産に触れ歴史や自然の大きさを感じ、リニアモーターカー試乗で未来を感じることが出来ました。

現在、研究室のWeb Site (<http://www.clnpower.eee.tut.ac.jp>) では、研究室の紹介やメンバーについての情報を公開しています。最後に、豊橋の近くに来られたときには、是非研究室にお立ち寄りください。ご来校を研究室一同、心よりお待ちしております。先輩方の今後の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



半導体結晶成長研究室

電気・電子工学専攻 修士2年

細見 聡一郎

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場での最前線でご活躍されていることと存じます。

本研究室の近況についてご報告させていただきますと、現在の研究室は、朴康司助教授を中心とし

て、修士5名、学部4名、研究生2名の総勢12名で構成されております。本年度は研究室配属生徒数が少ないことから1研究室あたりの配属人数が若干減りましたが、本研究室への影響はあまり無く研究室一丸となって日々研究に勤しんでおります。

朴研究室の研究テーマは大きく3つに分かれ、1) FIBを用いたマスクレス選択成長、2) GSMBEを用いた新機能性半導体材料の開発（窒化物等のワイドバンドギャップ半導体）、3) MOVPEを用いた良質な窒化ガリウム成長の確立、をテーマとして研究を行っています。現在3)については装置を貸し出し中のため1)2)をメインに研究をしている状況です。これらの研究を進める環境もここ数年で格段に向上しており、平成15年に開設されたベンチャービジネスラボラトリーは、上記の研究を進めるのを大いに促進する施設となっています。現在行っている研究のほとんどは、先輩方の研究の上に成り立っていますが、それらの成果は着々と進んでおります。

研究室の行事として、毎年恒例の朴研と米津研の合同夏ゼミ旅行があります。今年は長野県の松本へ行き、テニスや温泉で疲れを癒しました。この旅行では修了生、卒業生を迎えての宴会も毎年恒例となっております。今年も修了、卒業後の体験談や在学生への激励を頂きました。今後とも、世代を超えて交流を行う場として、あるいは後輩を叱咤、激励

する場として利用していただきたいと思っています。研究室の近況やメンバーについては、ホームページ (<http://www.dev.eee.tut.ac.jp/paklab/>) で公開しておりますので、お時間のあるときにも、ご覧ください。

最後に、もし豊橋の近くに来られた時などには、研究室の方にお気軽にお立ち寄りください。先輩方の来校を研究室一同、心よりお待ちしております。皆様の今後の更なるご活躍を心よりお祈りいたしております。



プログラミング言語研究室

情報工学専攻 修士1年

石 中 貴

卒業生、修了生の皆様、はじめまして。プログラミング言語研究室です。当研究室は2003年度に京都大学より赴任された小宮常康講師の指導のもとに2004年4月に開設されました。現在は小宮先生と修士5人、学部3人の計9人で構成されており、C2-401を研究室として日々研究に勤しんでおります。新しい研究室ですので、まだ卒業生、修了生は輩出しておりません。先輩方におかれましてはこの機会に当研究室をお見知り置き下さいますようお願い申し上げます。

さて、それでは我々の研究内容について簡単にご説明いたします。現在は主要テーマとして「シームレス分散処理の実現」を掲げ、そのための処理系である、Scheme言語（LISP言語の一方言）のコンパイラの開発を中心に、それに付随する周辺機能の研究などを行っています。シームレス分散処理とは、ネットワー

クを介して他の強力なコンピュータの計算力を利用することが一般的となっているという現状を踏まえ、これを応用、進化させた手段の提案です。これは身の回りに多数存在するコンピュータの計算資源のみをシームレスに結合し、有効に活用するとともに、個々の計算機の境界線をなくし、作業の中断時や端末の切り替えにおける、操作の利便性の向上を図るものです。前述のScheme言語は洗練された仕様と強力な機能を持ちますが、特色の一つとして「継続」を明示的に扱えるという点があります。継続とは、プログラムが次に何の仕事をするのかという情報であり、プログラミング言語の基本的な概念です。開発中の処理系では仕事を分割したいところでこの継続を生成し、受け渡すことで並列に処理を行います。またこれ以外の研究としてはSchemeを用いたXML変換言語の実

装や、既存の処理系に対するデバッグの実装などを行っています。

研究室生の近況はホームページ (<http://www.pro.ics.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますので、お時間があ

ればぜひ一度ご覧下さい。最後になりましたが、先輩方のより一層のご発展とご健勝をお祈りして挨拶とさせていただきます。

生体・神経情報工学研究室

電子・情報工学専攻 博士2年

豊田 俊裕

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。

さて、本研究室の近況について報告します。現在は、白井支朗教授が理化学研究所 脳科学総合研究センター ニューロインフォマティクス技術開発チームのチームリーダーに着任され、本研究室は中内茂樹助教授、宮澤佳苗VBL研究員の2名のスタッフと、博士3名、フィンランドからの研究生を含む修士8名、学部3名、秘書1名の総勢17名という以前に比べてかなりコンパクトな構成となっています。また、学生を主体とした活動として、週に1回外国人講師を招いた英会話教室が開催されています。さらに、2年連続で海外実務訓練として学生がフィンランドに数ヶ月滞在するなど、海外で活躍する場も増えつつあり、本年も3名の学生の海外実習が決定しています。

研究においては、現在は人間の視覚の機能を心理物理学的・計算論的な観点から解明を目指す視覚科学グループと、視覚に関する基礎研究で得られた知見を「技術」として確立させることを目的とした視覚技術グループの2つに大別されます。視覚科学グループでは、ERPによる脳機能計測による脳機能の左右差、空間認知における影の影響、材質感の知

覚、バイズ推定による文献フィルタリング、シーン統計量を手がかりとした色知覚、ぼけに対する順応など、多岐にわたる視覚の基礎研究が行われています。視覚技術グループでは、近年注目を集めているカラーユニバーサルデザイン、我々の視覚ではとらえることのできない情報を分光学的手法により浮き彫りにする技術開発に関する研究が行われています。また、こうした研究の成果は、月に1回程度開催されているWS等により活発に議論され、国内外を問わず学会にて積極的に発表されています。

詳しい研究室の近況は、随時ホームページにて公開していますので、ぜひ一度ご覧いただければと思います。また、近くへお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。



信号処理研究室

電子・情報工学専攻 博士1年

秋 田 一 平

修了生，卒業生の皆様，今年の夏も記録的な猛暑や台風が続いておりますが，いかがお過ごしでしょうか。ますますご活躍のことと存じます。

さて，本研究室の近況についてまず報告します。現在，本研究室は，田所嘉昭教授を中心に和田千講師，夏井雅典助手，また学生として博士1名，修士7名，学部生4名の総勢15名で構成されております。特に今年度は，和田先生が文部科学省の海外先進教育研究実践支援プログラムで1年間アメリカのアイオワ州立大学に行かれていますため，本研究室に配属された学部生が例年より少なく，また前年度まで本校で助手として活躍されていた野口先生は，昨年度開校した沖繩高専に異動されたため，一時期と比べて約半分の構成人数となっています。それでも，今年度から夏井先生が本学に着任され，研究室全体としてはこれまでと少し違った新しい雰囲気の中で各々研究に勤めています。当研究室の研究内容は，これまでのようにデジタルグループとアナロググループとに分かれており，特にデジタルグループは採譜を中心とした楽器推定などをテーマに，アナロググループはアナログ集積回路の基礎研究を中心とした低電圧回路などをテーマにして

日々研究に励んでいます。

研究室行事として今年も海水浴，ハイキング，Kids OB戦などが行われます。特に毎年9月前後に行われるKids OB戦は，OBの方々と野球試合を通じて，先輩後輩が交流できるよい機会だと思いますので，ご都合のつく方がおられましたら是非ご参加下さい。研究室一同，心よりお待ちしております。当研究室の研究内容，近況などについてはWebページ (<http://www.signal.ics.tut.ac.jp/>) で公開しております。機会がありましたら是非ご覧下さい。

最後になりましたが，諸先輩方の今後の更なるご発展，ご活躍を心よりお祈り致しております。



平成17年度3・4系同窓会国際学会発表奨励金採択者一覧（前期）

3・4系同窓会役員会は昨年度から，学生に国際学会発表を奨励することを目的とした国際学会発表奨励金の創設を提案し，3・4系同窓会ホームページおよび昨年の同窓会報において，皆様にご意見を伺ってきました。その結果，今年度初めの3・4系同窓会役員会において，その創設が正式に決定しました。今年度は，4月に前期募集を行い，7月に採択者を以下の通り決定しました。

岩崎 康浩（3系修士課程2年，榊原・滝川研）
 志岐 肇（3系修士課程2年，榊原・滝川研）
 岩崎 洋平（4系博士後期課程3年，栗山研）
 大濱 吉紘（4系博士後期課程3年，宇野・福村研）
 香川 高弘（4系博士後期課程3年，宇野・福村研）
 向井 智彦（4系博士後期課程3年，栗山研）

後期の募集期間は10月～11月です。なお，後期募集より，採択件数を変更することになりました。これまでは，前期，後期それぞれ5件ずつとしておりましたが，後期募集より系ごとに3名ずつと改めます。

第五工学系

物質工学系より

系長あいさつ

物質工学系 系長 青木 克之

同窓生の皆様にはますますご活躍のことと存じます。平素は大学および物質工学系に格別のご配慮、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。



大学は昨年4月に国立大学法人となり、第1期中期目標・中期計画（6年間）に基づき大学の改革を進めております。今年4月には既設センターの再編と新センターの設置等の研究体制の整備が行われました。物質工学系では今年3月に系内外で要職を務められた亀頭教授が定年で退職され、4月から分析計測センターの改組に伴い服部助教授が配置換えで本系に着任し、未来ビークルリサーチセンターの新設に伴い西宮助教授がセンターに配置換えとなりましたが引き続き本系を兼任しております。系内の改革につきましては、学生定員の確保、社会の要請等の議論を踏まえて昨年度から「教員のカオが見える物質工学系」を掲げて講師以上の教員は各自の研究室を立ち上げました。また、ここ数年来、系内の教育内容・教育体制の自己点検を通してその整備と改革を進めておりますが、本年度は日本技術者教育認定機構（JABEE）による物質工学課程プログラムの認定審査を受けることとしております。これにより本系教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかどうかについて外部機関により公平に評価されることとなります。その取り組みとして昨年皆様には、物質工学系在学時に受けられた教育・講義・研究、施設・設備等についてその評価をアンケートによりお聞きし、多くのご回答と貴重なご意見をいただきましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。アンケート結果では専門科目について「高い評価」をいただき私共も自信を深めておりますが、いただいたご意見を参考にして更に改善に努めて参ります。

法人化に伴い、大学は一層の競争環境の下にありますが、大学が教育・研究における高い競争力を維持するためには、学生・教職員のみならず同窓生の皆様を含めて、大学全体が高く評価されることが重要かと存じます。物質工学系は引き続き時代の要請に応えるべく、化学を中心とする分野における先端的技術の研究と実践的創造的かつ指導的技術者・研究者の育成に一層専念して参ります。同窓生の皆様におかれましてもますますご活躍されるとともに、今後とも、物質工学系の教育・研究に一層のご高配、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

【工業無機化学大講座】

角田研究室	: 角田範義 教授,	大北博宣 教務職員
水嶋研究室	: 水嶋生智 講師	
大串研究室	: 大串達夫 助教授,	佐藤裕久 助手
逆井研究室	: 逆井基次 教授,	武藤浩行 助手
松田研究室	: 松田厚範 助教授	

【工業分析化学大講座】

神野研究室	: 神野清勝 教授,	齊戸美弘 助手
平田研究室	: 平田幸夫 助教授	
青木研究室	: 青木克之 教授,	藤澤郁英 教務職員
吉田(祥)研究室	: 吉田祥子 講師	

【工業有機化学大講座】

伊津野研究室	: 伊津野真一 教授,	原口直樹 助手
吉田(絵)研究室	: 吉田絵里 助教授	
岩佐研究室	: 岩佐精二 助教授,	柴富一孝 助手
服部研究室	: 服部敏明 助教授	
竹市研究室	: 竹市 力 教授	
松本研究室	: 松本明彦 助教授	

【研究基盤センター】: 加藤 亮 助手

【工学教育国際協力研究センター】: 堤 和男 教授

【未来ビークルリサーチセンター】: 西宮伸幸 助教授

【技術専門職員】: 太田初一
齊藤年秀

【第五工学系事務員】: 鈴木いずみ

(御連絡) 大学ならびに第五工学系の系内再編に伴い

1. 各研究室名が変更となりました
2. 講師以上の教員は独自の研究室を立ち上げました
3. 助手および教務職員は講師以上の教員1名との共同研究体制となりました

学内近況報告

物質工学系 大串 達夫

卒業生・修了生の皆様におかれましては、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。



1990年代半ばに顕在化した深刻な不景気が日本全体を覆い、社会のいろいろな制度・しくみが変更を余儀なくされ実際が変わりました。その変化にやや遅れて、大学も急速に変わり始め、今その変化の途上にあります。既に大学内の運営方法は以前と大部変わって来ていたのですが、外から見える形での変化は、昨年4月の法人化でしょう。大学運営に必要な資金を、今後は大学自身も調達法を考えなくてはならなくなりました。資金調達という側

面ばかりではなく、産業界活性化という役割も担って、大学の理事・副学長直属の組織「知的財産・産官学連携本部」が平成15年10月に設置されました。これは、本学で誕生した新しい技術を財産として保持・管理し、実社会に役立て、大学の収入の一助にもしようとする意欲の表れです。更に、これまでは大学の優れた知識・技術が、期待した程実社会に生かされていないと言う反省の下に、積極的に大学の技術的シーズと社会・産業界のニーズをマッチングさせる役割を果たすべく「株式会社豊橋キャンパスイノベーション」が平成16年4月に設立されました。この会社は大学とは別組織になっていますが、運営は知的財産・産官学連携本部と強く連携しており、より効率的により高い成果を求めて活動しております。この会社には、本学の何人もの先生が株主として出資し、しかも会社組織が丸ごと本学内にあります。平成17年3月に物質工学系の教授を定年退職されました亀頭先生が、同年6月から株式会社豊橋キャンパスイノベーションの第2代目の社長に就任致しました。このような組織・布陣を見ても分かりますように、大学も豊橋キャンパスイノベーションも、本気で事業に取り組み、知的財産を元手に実社会に貢献し経営的にも黒字を目指しております。

日本の若者人口の減少、大学間の熾烈な競争、そして法人化による運営資金の問題から、規模の比較的小さな本学は単独での存続が今後厳しくなると予想されています。そこで規模が大きく優れた実績を持つ大学との統合問題が学内で議論されております。しかし、単に2つの大学が統合しただけでは、それまで築いてきた双方の大学の特色が無くなってしまい、社会に対する貢献という点でもプラスにならない事になります。そこで、統合をスムーズに有意義にする為に、統合前になすべき事として学内再編問題があります。現在議論の最中で、今後どのようになるかはまだ分かりませんが、再編後は物質工学系が割れ、名前も残らないと言われております。物質工学系を単立した皆さんからすると、大変寂しい思いをする事と思います。内部にいる私達も、今はそれ程の大きな変革の時代なのだと痛感している次第です。この再編に関連する変化は一部で既に始まっており、技術開発センターに居られた服部先生が物質工学系のあるB棟に引っ越して来られました。西宮先生が居室を4階から3階へ移しました。実験室も幾つかの研究室で移動がありました。学内再編問題には、神野先生が学長補佐・将来構想担当という立場で携わっておられます。

大学は、今まで以上に社会に対して有用な存在となる事を期待されています。本学に関して言えば、期待の一つは上に述べました新しい有用技術の提供であります。もう一つの重要な柱は、実践的科学技术者を育成し社会に送り出す事です。この後者の活動を客観的に評価してもらう為に、物質工学系では平成17年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け、認定を得ようとしています。この認定を得る為には、事前に膨大な準備が必要で、物質工学系では4年前から準備

を始め、平成17年7月末に最終審査書類を完成させました（この審査書類は本文と資料から構成され、A4用紙で7cm以上の厚さにもなり、この他に審査当日に揃える資料が机の上に山積みになる程）。審査は10月中旬になる事が決まっております。この審査書類を準備する過程で、平成16年8月に皆さん及び皆さんの会社へ、物質工学系の教育・研究・制度・設備に関する多岐にわたる問題についてアンケート調査の協力を頂きました。この調査内容を覚えている方も多いと思います。回収した回答を整理して、大変喜ばしい結果を得て、関連委員一同勇気づけられる思いを致しました。物質工学系教員が担当している専門に関する教育・研究が、どれも予想以上の高い評価を得ていたからです。しかし満点と言う訳では有りませんし、中には厳しい意見もありましたので、今後もより満足して頂けるよう、教員一同努力して行く所存です。制度・設備に関しても高い評価を得ていました。物質工学系のJABEEに対応する体勢は、系長の青木先生、5系JABEE検討委員会委員長の竹市先生を始め、系内が一丸となって取り組んでいます。

他大学が3年編入生受入枠を増やしてきた事、社会経済事情が化学系物質系企業に有利に働いていなかった事などが原因で、過去10年くらい物質工学系を志望する受験生の減少傾向が続いていました。物質工学系ではこの状況に危機感を持ち、教員が分担して、春と秋に全国の高専へ大学説明に出向く努力を重ねて参りました。その努力の甲斐あってか（社会経済事情の好転の為か定かでは有りませんが）、2年程前から物質工学系の受験生が増加し始めました。この傾向が今後も続くのか、まだまだ見定めが必要ですが、少し愁眉を開いた所です。

バブル景気のはじけた後ずっと、物質工学系の卒業生・修了生に対する求人は冷え込んでいました。特にここ数年は厳しい状況でした。しかし今春は冷え込みが少し緩んだ感じでした。まだ、かつての引く手あまたの時代と比べると、問題にならない位な状況ですが、最悪期は脱しつつ有るのように感じます。それにつけても、学生の就職活動状況を見ていると、既に本学を単立して十年或いはそれ以上経つ卒業生・修了生の皆さんの存在を、本当に有り難く感じます。自由応募でチャレンジする場合は、第一次試験、二次試験、……、と何回も行かなくてはならない所を（この場合でも「桜散る」のケースがある）、卒業生・修了生の会社が求人に来られる場合、求人内容と学生の希望が旨く合致すると、たちまち内定に漕ぎ着けるのです。このような事になるのは、社会に出た皆さんが長い間に築いた実績と信用の賜のためです。かつてのあの学生がここまで信用を得るまでになったか、と感じるとき、私達も本当に嬉しくなります。

今後も大学が存続し発展する為には、地域連携や卒業生・修了生との連携が不可欠です。豊橋技術科学大学の運営に、今後も皆様の絶大なるご支援とご協力をお願い致します。

研究室だより

大串研究室

物質工学専攻 修士2年 加藤 真人

卒業生、修士生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場においてご活躍されている事と存じます。昨年度で亀頭直樹先生が退職なされて、現在の物質開発研究室は、大串達夫助教授、佐藤裕久助手の下、修士5名、学部2名の計7名で日々各人の研究に励んでおります。3人のスタッフがいる研究室と比べると学生の人数は少ないですが、そのせいもあり、みんな仲が良く明るい研究室です。

さて、そんな研究生達が現在取り組んでいる研究テーマを簡単に紹介します。修士学生は、A型及びL型ゼオライトにおけるカチオンの挙動及びマイクロ波との相互作用、X線を使ったゼオライト中のイオン分布の決定、Mn酸化物からなる多孔性物質の合成とその特性、希土類酸化物のX線構造解析、学部学生は、ゼオライトの熱的安定性やマイクロ波加熱による劣化度の研究を行っています。さらに、毎年中部化学関係学協会支部連合秋季大会に修士学生が参加し、日々の研究の成果を発表しております。

研究室のイベントとしては、春は花見、夏は研究室旅行、冬は新入生歓迎会、忘年会、追い出しコンパと色々なことを行い、研究の疲れを癒したり研究生同士の結束を深めたりしています。

卒業生の皆様、豊橋に来られることがございましたら、どうぞお気軽に研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心より歓迎致します。

最後になりましたが、諸先輩方の更なるご活躍を心からお祈り致します。



青木・吉田(祥)研究室

機能材料工学専攻 博士3年 上松 正和

卒業生・修士生の皆様にはますます各分野においてご活躍のことと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。現在、生化学研究室の吉田グループでは吉田先生のもと博士2名、修士3名、学部生5名で構成されております。明るくユーモラスな先生と共に、学生一同のびのびと楽しんで研究活動を行う毎日です。特に研究室内の団結力は強く、学会準備も全員がお互いを信頼し、分担して遂行することができ、また先日の研究室対抗ソフトボールもOBの皆様の参加により更に一致団結して見事優勝することができました。研究室のメンバーは公私共に良き仲間であります。

研究のほうですが、これまでラット小脳組織培養と染色中心だったものが現在では一新し、acute(急性切片)での光学・超音波測定に移行しております。acuteは培養せずにすぐに組織を用いて実験するもので、より生体内に近い状態で小脳メカニズムを検証することができます。この検証方法が光学測定で、神経細胞から放出されるグルタミン酸やGABAといった神経伝達物質を酵

素を用いて分解し、その副反応として生じる蛍光を測定します。この方法は私(上松)が皆様にアドバイスを頂きながら確立したもので、オリジナルな上に有用性も非常に高く、学会のポスター発表では人だかりができる程です。また、同時に行っている超音波顕微鏡を用いた観察では、電気電子工学の穂積先生の全面協力の下、染色を行わずに形態を観察することに成功し、非破壊・非固定・非染色にて生きた組織サンプルをイメージングすることができるようになりました。この研究においても多くの共同研究者との技術協力や学会での問い合わせを頂き、これからも益々の学術的発展が期待できます。これらはこれまで皆様が積み上げてきた知識や技術の成果でもあります。青木教授のグループの詳細や、詳しい研究内容、研究室メンバーについては本研究室のホームページ(<http://rodent.tutms.tut.ac.jp/>)にてご覧下さい。暇が出来たときにでも近況のメールでも頂ければ幸いです。最後に卒業生・修士生の皆様からの益々のご活躍を心よりお祈りしております。



伊津野・吉田(絵)研究室

機能材料工学専攻 1年 高橋 美由紀

卒業生、修士生の皆様いかがお過ごしでしょうか。各分野でおおいに御活躍のことと存じます。

一昨年、伊藤浩一教授が定年により退官され、昨年新たに吉田絵里助教授と原口直樹助手が着任されました。現在の伊津野・吉田研究室では、三名の教員の下、博士一名、修士四名、学部生八名の計十三名で日々研究に励んでいます。一時は減りましたが、再び学生が増えるに伴い、研究室内の活気も取り戻されつつあります。

本研究室は研究を進める上では伊津野・原口グループと吉田グループとに分かれています。毎週開かれている雑誌会や、研究室行事などは両グループ共同で行っています。また、その他の場面でも仲良く過ごしています。現在進められている研究テーマを簡単に紹介します。

伊津野・原口グループでは高分子固定型キラルジアミンを不斉配位子とした水系もしくは有機溶媒中での不斉触媒反応、水素化ホウ素ナトリウムによる還元系への高分子固定スルホン酸の添加効果、ペプチドおよびタンパク質構造形成の統計理論などの研究を進めています。

吉田グループでは超臨界流体中でのミセルの形成や、リビングラジカル重合によって得られる高分子を用いた非両親媒性ミセルの形成などを研究しています。

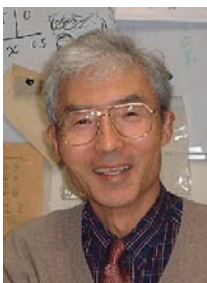
研究室行事としては、毎年恒例の豊川河川敷でのバーベキューや、新入生歓迎会、忘年会に追出しコンパを行っています。また、本年度から、夏に東工大の平尾研究室、名工大の鈴木研究室との合同交流会を開くこととなりました。

御多忙とは存じますが、卒業生、修士生の皆様豊橋方面へ来られた際にはぜひ研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心からお待ちしております。最後になりましたが、先輩方の更なる躍進と御健康をお祈りしています。

退職教員より

亀頭 直樹

本年3月末をもって定年退職しました。いろんなところを回り回ってきた人世のその都度のひと区切りの積み重ねであった。校舎建築の槌音響くなかの昭和54年4月に物質工学系に着任して以来26年間、本学では第1期生の卒研からずっと若い学生諸君と一緒に希土類マンガナイト系新物質の開発研究に従事してきた。私の一生は建設時の組織の立ち上げという宿命があるようで、大学院へ進学したのが当時新しくできた原子核工学の専攻で、助手に就職したところが名古屋大学で新設学科の最後の講座の開設のときであり、そしてまた本学へ移ってきたときには新設大学の研究室棟（B2棟）の図面の相談から始めたという状態で、移るたびに研究は一時ストップして一から装置を作るという人生を何回も繰り返してきた。効率が悪いといえば悪いが手作りの装置（市販にはない装置だから仕方がない）でユニークな研究をしようとすればこれしか他に方法がないわけでのその運命に従ってきた次第である。酸化物の不定比性を取り扱う上で酸素分圧の制御装置を試作することが先ず第一歩であり、そのためガラス細工の腕に磨きをかけてよりコンパクトに、そしてより便利に装置に改良を加えてきた。幸い清水博氏（当時名工試）が1年生の工作実習の指導に非常勤講師として来られていたので研究室の学生はガラス細工では日本3大名人の一人から直接手ほどきをうける機会を得ていた。名人と称せられる人はみな勝負強く、彼もマージャンではなみの学生以上の実力をよく発揮していた。研究室の学生もこのような付き合いからいろいろと人世訓を得たようだ。不定比性の実験では、温度一定で酸素分圧を変えていくと不定比酸化物の重量が変化していくが、通常の重量分析の概念ではこれが一定となるはずで（だからこそ定比化合物の定量分析となる）、最初の学生が希土類マンガナイトでこの実験を始めた途端に重量変化が起こって、一定にならないから実験が



間違っているのではないかと、卒研が遅れていって卒業ができないかもしれない、と慌ててその学生が部屋へ飛び込んできた。日頃の輪講での話からしても、変化することこそまさに不定比性の現象がよく現れているのだと納得してもらったことが今も鮮明に記憶に残っている。その学生もすでに高専教授として若い学生を指導しているのをみて感無量である。結局物質開発のためのわれわれのユニークな酸素分圧制御装置は小生の定年まで改良を重ねてきて世界的に見ても最高性能のものとなっている。ただ手作りであるだけに一見極めて貧相であり、見学者（特に門外漢）は一様なのが最高性能かという顔をする。しかし市販の立派な外観をもったスマートな装置というのは量産ではあっても手作りの試作品ではあるはずがないことを知ることがモノづくりというものを理解する第一歩である。モノづくりというのは決して生易しいことではない。ましてやきれいごとでもない。この世にない装置を使い、この世にない物質を作ろうとするときには特にこのような泥臭いことがあるということ卒業生諸君は身につけて巣立っていった。厳しい現実においてこのことを肝に銘じて各分野で努力しておられることであろう。この酸素分圧制御装置を使っていくつかの new phase（新相）を見つけることができた。やはり技術の極限までいけば新しい物が出てくるものである。おかげで多くの新物質に出会えた幸せな技科大時代であった。物質開発の一面を切り開いたと自負しているが、そのうち希土類マンガナイトの応用例に出会うことを楽しみにしている。日本がこれまで発展してきたのは、若者が「今に見ておれ、きっとオレの時代が来る」と信じて常に未来に期待して心身ともに健康で明るい夢を持って生きてきたからである。皆様もこの心意気を持ってご活躍されることを祈っている。小生はいま、(株)豊橋キャンパスイノベーションにて本学の知的財産の活用のお手伝いをしているのでまたどこかでお会いする機会も多々あるかと思えます。長い間ありがとうございました。

—第5工学系同窓会収支報告—

会報郵送料の執行額が少なかったのは、郵便料金改定によるものです。また、役員旅費は2月21日に東京で開催された同窓会懇親会に役員が出席した際の交通費です。その他の予算については例年通り執行致しました。

■収入の部

	平成16年度予算案	平成16年度決算	平成17年度予算案
前年度繰越金	1,958,405	1,958,405	2,131,572
会費	400,000	350,000	400,000
預金利息	20	17	20
小計	400,020	350,017	400,020
収入合計	2,358,425	2,308,422	2,531,592

■支出の部

	平成16年度予算案	平成16年度決算	平成17年度予算案
会報郵送料	170,000	110,560	120,000
タックシール作成費	10,000	7,520	10,000
袋詰め作業代	10,000	13,210	15,000
謝礼	14,000	18,000	20,000
名簿管理経費	15,000	10,000	15,000
慶弔費	0	0	0
役員旅費	0	17,560	20,000
小計	219,000	176,850	200,000
次年度繰越金	2,139,425	2,131,572	2,331,592
支出合計	2,358,425	2,308,422	2,531,592

第六工学系

建設工学系より

学内近況報告

教授 廣 島 康 裕

卒業生の皆様にはお変わりなく御活躍のことと存じます。大学は法人化2年目となり、今なお若干のとまどいは残りつつも、教職員全員が前向きに「改革」に取り組んでいるところであります。

建設工学系では本年度から大貝彰先生が系長に、青木伸一先生が系長補佐にそれぞれ選出され、新しい体制で系運営が行われています。また、本年4月には本系が中心となって「地域協働まちづくりリサーチセンター」(CCR)が設置され、大貝先生がセンター長を務めておられます。このCCRは、地域の各種団体組織との連携・協働の下に学内関連教員の分野横断的な連携により、地域・都市の再生のための地域協働プロジェクトの実践、まちづくり・地域防災・環境管理等のための技術開発研究、研究成果の地域社会還元および市民・自治体の意識啓発・人材育成の推進等を旨とするのであります。

本年3月には本間宏先生が定年退職されました。ただし、すぐに後任人事を進められないという現在の大学の事情もあって、本間先生には4月から非常勤講師として引き続き本課程の教育に当たっていただいております。また、3月には中治弘行先生が高松高専講師として、有田守先生が大阪大学助手としてそれぞれ転出されました。さらに、7月には金広文先生が海外建設系コンサルタントの(株)アルメックに主任研究員として就職されました。一方、昨年10月には計画大講座の助教授として松島史朗先生が公募を通じて採用されました。松島先生はハーバード大学デザイン大学院で博士(デザイン学)の学位を取得した後、同大学院の講師を務めておられましたが、渡米前には鹿島建設建築設計部に勤務しており、建築実務面でも豊富な実績を有しておられます。4月からCCRに配置換えとなりましたが、引き続き6系兼任教員として住宅・住宅地計画学、建築・都市設計等の教育研究に当たっております。また、4月には、松井智哉先生が構造大講座の教職職員として赴任されました。松井先生は、東京大学博士後期課程を修了され、専門は鉄筋コンクリート構造学であり、本学では構造系の演習科目、建設工学実験等を担当されておられます。さらに、4月には松本博先生が本間先生の後任として建築環境工学の教授に昇任されておられます。

本年度の就職担当は井上先生が務めておられます。最近、就職活動の時期が早まっていることに対応し、修士1年生や学部3年生の2学期終了前に就職説明会を開催し、1月には個別指導を実施しておられます。本年度の本系の就職状況は他系に比べると依然として厳しいものの、前年に比べると若干上向いてきており、系推薦で内定する学生も前年に比べて増えているようです。最近では自由応募が広まり、就職指導は厳しい面

もあるようですが、一人でも多くの学生が希望の就職先に入れるよう奮闘されておられます。

本系では昨年度から本格的にJABEE(日本技術者教育認定機構)の受審申請の準備を進めてきましたが、本年7月に建築コースと社会基盤コースの2コースの自己点検書を完成・提出し、11月に実地審査を受ける予定になっています。この自己点検書の作成に当たっては、責任者の青木系長補佐、加藤(彰一)助教授(建築コース担当)、三浦助教授(社会基盤コース担当)をはじめ、ほとんどの教職員が多大な労力を払ってきました。後は実地審査を乗り切るだけですが、この審査には卒業生インタビューも含まれており、何人かの卒業生にご協力いただくこととなりますので、その際には何卒よろしくお願いいたします。また、これに関連した卒業生アンケートにご協力いただきました方々には、この場をお借りして御礼申し上げます。なお、本系では2つのJABEEコースを設置しておりますが、これは決して学科が2つに分割されるということではなく、建設工学系としてはこれまで通り建築と土木の真の融合を目指した教育研究を行っていく方針に変わりのないことを付記しておきます。

以上の他に、紙面の都合で詳しくは紹介できませんが、本系の多くの教員が21世紀COEプログラムに参画するとともに、社会貢献活動、地域や産業界との共同研究、高専への出前講義、高専生の体験実習の受け入れなど、これまで以上に積極的に活動を行っています。

■新任

松島史朗(平成16年10月から)
松井智哉(平成17年4月から)

■転出

本間 宏(定年退職、名誉教授)
中治弘行(高松高専講師)
有田 守(大阪大学助手)
金 広文(株アルメック主任研究員)

■現職(2005年8月現在)

[構造大講座]

教 授：加藤史郎、角 徹三、河邑 眞
助 授：山田聖志、倉本 洋、三浦均也
助 手：中澤祥二
教務職員：松井智哉
技 官：金田隆文

[環境大講座]

教 授：松本 博、青木伸一(系長補佐;学長補佐)、
井上隆信
助 授：山田聖志、倉本 洋、三浦均也
講 師：加藤 茂(ICEED 兼務)
助 手：山田俊郎
技 官：片岡三枝子

[計画大講座]

教 授：渡邊昭彦、廣島康裕、大貝彰(系長;CCR長)
助 授：泉田英雄、加藤彰一、松島史朗(CCR 兼務)
助 手：谷 武、細田智久

[事 務]

中村友子

退官教官より

退職後の数ヶ月

名誉教授 本 間 宏

豊橋技術科学大学に来て25年を過ごし、この3月に65歳の定年を迎え退職しました。一段落を迎えて、少しわが人生を振り返らせて頂きたいと思います。

1963年に大学を卒業して42年、うち17年は札幌、ストックホルム、モンリオールと寒冷地で過ごし、25年間を温暖の地豊橋で過ごしました。札幌では1972年のオリンピックに備えて、中央地区の地域暖房の可能性を探り、建設する仕事に参加できました。これは暖房設備を備えたビルが並んでいる地域に新たに地中配管を行い、ビルに接続してもらうのです。それまでの札幌の冬は石炭や重油で暖房していて、春になって雪が溶け出すと、油煙で雪の上が真っ黒に汚れていました。71年にはスウェーデン王立工科大学から奨学金をもらって留学しました。ストックホルムでは住宅の水準が高く、快適な冬を過ごすことができました。しかし室内は24時間室温がほとんど変化せず、変化を求めて休日には多くの市民が公園を歩き回って過ごすのに仲間入りしました。ここで4年半を過ごし住宅の換気の安定化の研究で学位を得ました。その後1年間北海道に戻り、またストックホルムに行つて1年半を研究員として過ごしました。この間、アメリカに行つてみたいと思い、専門誌の求人広告を見て助教授の席に応募し、モンリオールのコンコルディア大学の建築研究センターに席を得ることができました。ここはそれまで欧米では別々に行われていた建築計画、構造、設備、科学、材料の分野を組織しなおして、研究を効率的に進めるためにカナダ政府の資金で新設されたものです。このような組織は日本では建築学科の初期から行われてきましたが、欧米ではこれを契機に組織変えが諸所で生じたように考えられます。モンリオールではフランス人、イタリア人他多くの民族が交じり合っていて、種々の食べ物があり、夕方には街路によいにおいが流れ、北欧の街では感じられない、日本の街のような気楽さがありました。欧米では日本人人口密度、ひいては求職の競争率が高くなく、転職が容易で終身雇用の制度が必要なく感じられました。ただしヨーロッパで研究職から大学教授の地位に上がることは不可能そうでした。ここで2年半ほどを過ごした後、豊橋にやってきました。

今振り返って見ると、私が大学を卒業する頃から、環境汚染の問題が表面化し、仕事ではこれを追風とすることが出来ました。ストックホルムでの最初の夏にドルショックがあり、日本円の価値が急に上がって、



日本を出るときには日本は発展途上国と見られていましたが、外国での日本の経済力も一目置かれるようになりました。73年には第一次石油戦争で石油が逼迫し、数ヶ月ではありましたがスウェーデンではガソリンが配給制になり、ガソリン切符が配布されました。これでエネルギー危機が表面化したことも、冷暖房、空調を専攻する者には追風で北欧、カナダの職も得やすかったのだと思います。

スウェーデンでは約500年にわたる気象データの蓄積があります。ストックホルム工科大学で冷暖房・換気工学科の学生たちと付き合つて、彼らには科学の発展が一続きで身近に理解されていると感じられました。この分野で言えば、錬金術から原子、分子の概念が生まれ、理想気体の挙動が明らかにされ、これらの応用から産業革命となり、公衆衛生学を必要とさせ、身体機能を発揮させるための暖房・冷房・換気技術に繋がってきたことの脈絡が彼らの技術的知識の基礎になっているように思われました。このことはこの分野で特許を生み出すことの重要な条件と考えられます。個々の特許を見ると高度に理論的な展開の産物としてよりも、技術的発展によって歴史上実現できなかったことが可能となり、原理的で単純なことが特許となるように感じられました。わが国で科学技術立国を目指すならば、高校までの基礎科学の知識と大学の技術教育の連結が大切と思われました。

豊橋での後半は高齢の教員が20歳前後の学生に講義や研究指導を行うための年代差を感じさせられました。講義で“昔”という言葉を使った場合、教員の意図する年代と学生の想定する年代とに大きな格差があります。カリキュラムに余裕があれば科学史を重視したいと思いました。

科学の歴史といえば、1983年にイラクの高等教育省の招待でバグダッドを訪れたことを思い出します。招待を受けるに当たつてアラブの科学を少し調べました。欧米ではメソポタミアの科学が尊敬され、数字はアラビア数字が使われています。ところがイラク(旧メソポタミア)ではインドの科学が尊敬され、インド数字が使われて言います。ではインドではどうやって科学を発展させたのかを考え出すと、高齢のためもあつて、睡眠に入れなくなることがあります。インドではクロマニヨン人が生まれてから現在までの時間よりも長い周期の天体現象が理解されていると言われていいます。これは観測を蓄積して得られるものではありません。最近はこの謎は宇宙(人)にあるのではないかと考えて、UFO関係の本を興味深く読み漁っています。

新任教官より

助教授 松島 史朗 (地域協働まちづくりリサーチセンター／建設工学系兼任)

平成16年10月1日付で建設工学系の教員として採用されました。現在は、地域協働まちづくりリサーチセンター専任助教授として建設工学系助教授を併任しています。京都大学大学院を修了後、カジマデザイン(鹿島建設建築設計部)に2000年まで勤務し建築設計を担当しました。その間、米国ハーバード大学デザイン大学院にて建築修士を取得しています。2000年に一念発起して鹿島を退職し、文化庁芸術家在外研修員としてハーバード

大学デザイン大学院博士課程に入学し学位を取得、同校及びマサチューセッツ工科大学で研究員・講師を行いました。リサーチセンターの理念である安全・安心の地域づくりに加えて、住宅計画、デザインテクノロジー、プロジェクトマネジメント等の研究領域と、多数の建築設計実務の経験を融合させて、デザインと生産を近づける手法を追究していきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



講師 加藤 茂 (工学教育国際協力研究センター／建設工学系兼任)

平成16年(昨年度)4月1日付けで工学教育国際協力研究センター(ICCEED)の講師(建設工学系兼務)として着任いたしました。博士課程2年までは岐阜大学に在籍しており、その後、京都大学防災研究所の助手として平成16年3月末までの6年間勤務しておりました。出身は岐阜県多治見市ですので、豊橋に来て少し実家に近くなりました。

専門分野は海岸工学、沿岸水理学です。学生の頃から現地観測に携わっており、防災研究所の時は冬場になると毎週のよう

に現地(新潟県の観測所)へ行っておりました。研究内容は観測や数値計算によって、主に沿岸域(海)の波や流れ、物質輸送などの諸現象の解明に取り組んできました。本学では、これまでの研究テーマに加えて、伊勢湾や三河湾、遠州灘海岸沿岸などの近隣地域を研究フィールドとして、東海・東南海地震による津波や台風による高潮などに対する沿岸防災分野の研究や、ICCEEDの使命である国際協力・貢献にも一生懸命取り組みたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。



教務職員 松井 智哉 (建設工学系)

この春、東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了し、4月1日付けで建設工学系の教務職員として着任いたしました。生まれは香川県になります。埼玉大学工学部建設工学科で土木工学について4年間学び、その後、千葉大学自然科学研究科修士課程で2年間、東京大学工学系研究科博士課程で3年間、建築構造学について学びました。埼玉、千葉、東京と移り住みましたが、それぞれの街に特色があって豊橋(技科大周辺)は、海や山が近く自然のフィールドがあふれているところだというのが第一印象です。

専門分野は、主に鉄筋コンクリート構造、振動実験、耐震性能評価法を中心に

研究を行っており、耐震実験と地震応答解析の両面から研究を進めています。近年、比較的大きな地震が多発しており、その被害および社会的な損失も様々なものがありますが、我々の主な生活空間である建築物の安全性の面から、地震による被害を低減できればと考えています。豊橋技科大学では、さらに、既存建物の補強方法、改修方法についても研究を展開していきたいと考えています。

同窓生の皆様のお役に立てることがございましたらご協力させていただきますので、ご連絡いただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。



研究室だより

角研究室の近況

修士課程 2年 矢野 琢也

角研究室は、留学生1名を含む博士課程1名、修士課程3名、学部6名の計10名が在籍し、そこそこ仲良く、そして元気に研究に励んでいます。また、「そこそこ仲良く」の域を脱するために飲む会合やパターゴルフなどを通して親睦を深めています。

研究は主にコンクリート系が3グループ、木造系が1グループの4グループに分かれて行っています。3年ほど前から、木質フレーム、炭素繊維ロッドの圧縮—引張関係の実験が始まりました。木造フレームの実験は柱脚をガラス繊維で補強するもので、一般的な金物接合に勝るとも劣らぬ性能を示し、まだ実用段階には至っていませんが、順調に進んでいます。炭素繊維ロッドの実験は失敗が続き、角先生、学生ともに四苦八苦していましたが、なんとか成功しそうな段階に

なっています。

角先生が退官ということで、最終講義や記念パーティーが催されます。OBの皆様にお会いすることができる機会を楽しみにしております。



建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会幹事長 細田 智久 (18期生)

平成16年9月1日から平成17年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額
■残 金	
平成16年9月1日現在	984,497
■収入の部	
全学同窓会からの分配金(見込み)	450,000
建設工学同窓会名簿購入希望者からの振込金	141,000
小 計	591,000
■支出の部	
全学同窓会報発送作業等費用	48,000
全学同窓会報郵送費用	129,635
同窓会懇親会(東京)事務経費	45,460
名簿情報データの更新作業費	15,000
小 計	238,095
■残 金	
平成17年9月1日現在	1,337,402

第七工学系

知識情報工学系より

学内近況報告

知識情報工学系 杉浦彰彦

卒業生・修了生の皆さんお元気ですか。知識情報工学系の近況をご紹介します。

教員の人事としては、機能情報工学大講座の山本眞司教授が定年退職され中京大学に異動されました。また情報科学大講座の渡邊裕司助手が名古屋市立大学へ、機能情報工学大講座の滝沢徳高助手が筑波大学大学院へ、それぞれ講師として栄転されました。さらに機能情報工学大講座の杉本俊二先生と、情報科学大講座の酒井浩之先生が助手として新たに赴任されました。また学内の人事としましては、情報科学大講座の村越一支講師が助教授に、分子情報工学大講座の加藤博明助手が講師に、それぞれ昇格されました。

本学も他の国立大学同様に、独立大学法人として新たにスタートして1年がたちました。学内でも様々な改革が模索され、いろいろな改善が進められています。本系としましては、JABEE対応やカリキュラムの改訂など、様々な方面から、より良い教育・研究環境を実現すべく教職員一丸となって努力しております。大学改革の一環として学内の施設の新設や統合も進んでおり、本系関連としましては情報処理センターとマルチメディアセンターが統合され情報メディア基盤センターとなりました。また未来ピークルリサーチセンターが新設されました。また系内では演習などで利用されたF-101教室から端末用計算機が姿を消し、今後は学生諸君に貸与してあるノート型パソコンを中心に利用することになりました。

就職関係では一頃の風当たりの冷たさも少しずつではありますが和らぎはじめており、学生達にも希望が見えてきています。人材不足が続く情報関連の学科であることも支えになり、好転しつつある様に見受けられます。OB訪問などで就職活動中の学生に会うことがありましたら、諸先輩からも在校生にエールを送ってやって下さい。

卒業生の皆さんも大学の近くに来られた時には、先生や後輩達に近況を話にお立ち寄り下さい。皆さんの笑顔が何よりの土産になることと思います。

教職員一覧及び学生現員（平成17年9月現在）

[情報科学大講座]

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝
助教授：河合和久、市川周一、村越一支
助手：相田 慎、酒井浩之

[機能情報工学大講座]

教授：新田恒雄、堀川順生
助教授：金澤 靖、杉浦彰彦、北崎充晃
助手：桂田浩一、杉本俊二

[分子情報工学大講座]

教授：阿部英次、関野秀男、高橋由雅
助教授：栗田典之、後藤仁志
講師：加藤博明
助手：墨 智成

[事務関係]

事務職員：佐野友子、河合奈穂子
技術職員：小西和孝

[学生現員]

学部：1年次15名、2年次13名、
3年次61名、4年次65名
修士：1年次50名、2年次54名

同窓会事務局より

〈平成16年度収支報告〉

豊橋技術科学大学 7系同窓会
三井住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号884420

項 目	平成16年度決算
〈収入の部〉	
前年度繰越金	3,687,790
会費(各系分配金)	570,000
預金利息	32
収入合計	4,257,822
〈支出の部〉	
会報経費	
会報発送費	117,660
会報発送作業費	43,107
原稿執筆御礼	10,240
名簿管理経費	15,000
役員旅費(東京)*	45,000
小計	231,007
次年度繰越金	4,026,815
支出合計	4,257,822

* 同窓生懇親会（フォーラム in 東京）

退職教員より

社会は厳しいですよ

知識情報工学系 名誉教授 山本 眞 司

(現 中京大学情報科学部教授)



22歳で大学を卒業し(名大電子),それから50歳までの28年間に企業で過ごし(日立中研,日立那珂工場),そして技科大で15年間に過ごし今日に至りました。従って大学での生活は企業のその約1/2ということで,まだまだ企業人としての体臭が抜け切っておりません。そういう立場から現在の教職員や在校生の皆さんを辛口に見ますと,“みんな甘いなあ~”の一言に尽きるように思います。社会の荒波をまともに受けて育った方が少ないから仕方ないのかもしれませんが……

*教職員の方々:

法人化されて大学も徐々に企業並みの運営が要求されてくることでしょう。まだ実感は伴ってはいないでしょうが,10年位かけてすっかり変わるんでしょね。だってねえ,研究をやろうがやるまいが,教育を熱心にやろうがいい加減にやろうが,給料が上がらなければ下がりもしないで,常時一定の額が与えられる。その上,首になることなどまずあり得ない。資本主義社会であるはずの日本に,こんな変な小社会が存在するんですね。激しい競争と乱高下する給料(特にボーナス),そして下手をすればリストラに遭う可能性もある中で生活してきた者からすれば,これはまさに天国ですよ。これでは,仕事は極力しないで,のんびり雲の上でうたた寝をしている方が良いでしょう。

そういう意味では,大学は制度設計をやり直さないといけませんね。特に問題なのは教授職。もう昇進の必要もなくなり,気が緩みます。任期制を採用するならば真っ先に教授職に適用すべきです。成績の悪い20%の教員を再雇用しないという方針でも立てなければ良くならないでしょう。事務職も同様。今の仕事量ならば,職員は半分以下で十分にやっていけるはずで

しょう。とにかく無駄が多すぎると思いませんか。大体法人化しても事務職に対する人事権が学長に全然無いというのはナンセンスですし,仕事の内容が2,3年ごとにころころ変わって,いつまで立っても素人集団のままというのは一体どういうことでしょうかねえ……

でもこういう根本的な制度改革を内部から早急にやろうとしても出来ないかもしれませんねえ。だって,現在の状態が“それほど悪くは無い”と思っている教職員が大半でしょうから。何らかの外圧を期待するか,さもなくばじっくり時間をかけるしかないでしょうか?

*学生の皆さん:

私たちの少年時代は食う物もろくになく,まさに飢餓のどん底からはい上がってきましたから,ハングリー精神だけは旺盛でしたよね。それに対して,豊かな時代に育ってしまった現在の学生さんは可哀想です。ハングリーでも何でもないし,大学で何を勉強したいかもはっきりせず,卒業しても何になりたいかよくわからない。ろくに勉強もしなければ,面白そうな研究テーマも見つからず,何となく就職して数年もするとそこを止めてしまう。こんな中途半端な人間が30代,40代になっても,厳しい社会は受け入れてくれませんかよね。そんな人間を雇うよりも東南アジアではもっとやる気のある,基礎をきちんと教育されてきた若者がうようよいますから,何も日本人を雇う必要など無いのですよ。私たちの時代は先に苦労があって,後が少し楽になったのに対して(これを先憂後楽と言うそうです),今の人は先に楽があって後で苦労が付きまとうことになるでしょうか(先楽後憂という言葉は聞いたことが無いが)。若さが失われた頃に苦労が付きまとうというのは耐え難いことですねえ。これを少しでも緩和するにはどうしたら良いでしょう?

卒業研究,修士研究のための研究室配属選択において,あなた方は少しでも楽をさせてくれる研究室を真っ先に探してください。あれを止めなさい。最も厳しく鍛えてくれる指導教員こそ神様です,そういう所でしっかりとやりなさい。親元で甘やかされればなしで生きてきた人生とぎっぱり決別して,数年間の大学生活で自らの精神改造を行うことに取り組んで下さい。後で必ず思い当たりますよ,“ああ,若い内に苦労しておいて良かったなあ”,と。

※この原稿は「天伯」第116号に掲載されたものを,ご本人および企画広報室の了承を得て転載したものである。

研究室だより

〈情報科学大講座〉

村越研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 菅 沼 恭 次



豊橋技術科学大学の卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。大学で学んだ事をいかしてそれぞれの職場でご活躍していることと存じ上げます。

現在の本研究室のメンバーは、村越一支助教授を始めとする修士7名、学部4名の総勢12名と村越研究室が始まって以来一番の大所帯となりました。大学院進学の際、3名の方が本研究室に移ってまいりました。また最近、柳原大助教授が東京大学に移られることとなり、柳原研究室で共同研究を行っていた修士の方が1名一緒に移ることとなり先日大学近くのお店にて別れを惜しみつつ送別会を開きました。このように今年度は人の出入りが多く、新しいメンバーとともに新鮮な気分で研究に励むことができます。

本研究室での研究の目的は、人間や動物の脳、神経系の情報処理機能を計算機で再現できるように理解することを目指しています。研究室で取り組んでいる研究テーマの一例として(1)パラメータ更新ステップを可変にした柔軟な強化学習(2)SOM(Self-Organizing Map)を応用した巡回セールスマン問題の解法(3)PCNN(Pulse-Coupled Neural Network)を利用した画像認識等があります。メンバーそれぞれが興味を持った脳の機能についてより詳しく調べ、そこから新しい何かを提案できる研究テーマを決定していきます。

週1回のゼミの時間にはそれぞれの研究の進捗報告を行い意見を交換し合っています。また修士1年による英語論文の和訳と紹介も行いました。

本研究室の情報については村越研究室のwebページ(<http://www.nrn.tutkie.tut.ac.jp/>)にて公開をしていますので、お時間のある時に一度目を通して下さい。皆様ご多忙とは存じますが豊橋へ来られる機会がありましたらぜひお気軽に研究室へお立ち寄り下さい。村越研究室一同心よりお待ちしております。その際、大学在学中や就職活動、実際職場での貴重な体験などの話を聞くことができれば幸いです。

最後になりましたが先輩方の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

〈分子情報工学大講座〉

後藤研究室の近況

機能材料工学専攻 博士2年 鎌 倉 寿 行

卒業生・修了生の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと存じます。私ども、研究室一同もおかげさまで健やかに研究生活を過ごしています。現在の後藤研究室に在籍するメンバーは、後藤仁志助教授を始め、PD1人、博士2人、修士2年2人、修士1年2人、学部4年3人で構成されています。

今年の3月に、黒澤君が長い学生生活を終え、関東地方へと就職し、新しい生活を始めたそうです。同じく今年の4月に、小畑君が無事に博士課程へと進学できることができ、今は「結晶構造予測システム」の開発を実現するため日々研究に励んでいます。修士2年生の藤

田君と伊藤君は、過酷な就職活動を乗り切り、無事に内定を獲得しました。修士一年の中村君と松原君は、この秋に初めて学会へと参加します。中村君は小畑君の後を継ぎ、後藤研のネットワーク管理者になりました。PDの中山さんは「電荷平衡法を用いた溶媒系のシミュレーション」、私こと鎌倉は「基準振動を用いたタンパク質の動的解析」を行なっています。4月からの新入学生として、長井君と馬場君と川上君が研究室へとやってきました。嬉しいことに、サッカー経験者の川上君が研究室に配属され、サッカー好きの我が研究室としては、研究だけではなくスポーツにも力をいれて

いきたいと思っています。

話は変わりますが、以前までは関野研・後藤研・栗田研の3研究室合同で行なっていた夏の合宿や会合などのイベントは、各研究室のメンバーが多くなりすぎ、移動等が困難になったためにそれぞれの研究室で行なうことになりました。同時に3研究室で共有していたネットワーク環境も、IPアドレスの枯渇化に伴い別々にせざるを得なくなりました。

今年の合宿では、富士五湖の一つ、山中湖のほとりで2泊3日のほぼ貸切状態で行ないました。一日目は、学部四年生が分子動力学ソフトウェアAMBERについて発表をしてくれました。今後の研究でも分子動力学法を用いたアプローチが必要になるため、学生みんなで勉強をしています。二日目は、新五合目から頂上の登山コースと下山コースが異なるルートで誰でも安心して登れると言われていた須走口からの富士登山を計画していたのですが、なんと台風が直撃！（余談ですが、つい先日私が行った学会でも台風が直撃しました……）湖から水が溢れ出す道路を走りながら、ボーリング場を見つけ、皆でボーリングを楽しみました。そのあと、評判のカレー屋さん（しかも何かしらの特許をとっている）に行き、雨が降っているなかでもにぎやかに過ご

しました。三日日には、前日の雨が嘘のように上がる、旅館の窓から見える富士山がとても綺麗でした。せっかく麓まで来たのだからと、車で行ける五合目まで登り、小富士までのハイキングコースを巡り、富士山特有の植物や小富士から見えるパノラマを堪能してきました。最後に御殿場のショッピングモールを回り、充実した2泊3日の合宿旅行を過ごしました。

最後になりましたが、豊橋近辺にお越しになられた際には、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。



〈機能情報工学大講座〉

金澤研究室の近況

知識情報工学専攻 修士2年 神谷 直



修了生、卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。この場をお借りして、金澤研究室の近況についてご報告させていただきます。

現在のメンバーは、金澤靖助教授のもと、修士2年生2名、修士1年生5名、学部4年生5名の総勢13名で構成されています。本研究室では、人間の視覚認識の機能を計算機上に実現するために、コンピュータビジョンに関する研究を基礎・応用の両面から進めています。具体的には、以下のようなテーマが挙げられます。

1. カメラなどで撮影した静止画像、もしくは動画像

からの物体の高精度な3次元形状復元

2. 複数画像からのパノラマ画像の自動生成
3. 動画像からのカメラ自己校正

また、これらと並行して、基礎となる画像処理技術の研究、および応用システムとしてバーチャルスタジオシステムの研究にも取り組んでいます。

今年度も、メンバー同士協力しあいながら日々の研究に努めることはもちろん、学術論文の執筆や学会発表も行なっています。研究室の行事としては、週2回の輪講をはじめとし、お祝い事には先生も交えて祝杯を挙げています。また、2005年7月末に開かれたオープンキャンパスにおきましては、本研究室が機能情報工学大講座の研究室紹介を担当しました。来場した中高生と触れ合うことで、コンピュータビジョンについて考えてもらうこともできました。修了生、卒業生の皆様におかれましては、豊橋へお越しの際はぜひ本研究室にお立ち寄り頂きまして、激励、ご助言等いただけましたら光栄です。また、研究室の状況などはホームページ (<http://www.img.tutkie.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますので、御覧頂ければ幸甚です。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍、ご発展、心身のご健康を研究室一同、心よりお祈り申し上げます。

第八工学系

エコロジー工学系より

学内近況報告

エコロジー工学系の現状と将来

教授 水野 彰 (系長補佐)

同窓生の皆さん、お元気にご活躍のことと思います。先般は愛知万博が環境・エコロジーを主題に開かれ、環境に配慮しながら持続的発展を続けていくことの重要性を世界に発信しました。身近にも異常気象が感じられますし、国としても二酸化炭素の削減に取り組んでいくことが優先的課題となっており、そのために有効な技術開発がますます必要となっています。持続的発展のために技術・工学の面から貢献することを目的にエコロジー工学系が1993年4月に設立され、すでに12年が経ちました。健康・快適な暮らしを支える環境を維持していく上で、この分野の技術開発はますます重要になってきています。エコロジー工学系の将来を考えるにあたり、設立時の様子を振り返ってみたいと思います。以下は設立当初のエコロジー工学系のパンフレットの文章です。その前年8月頃に提出した新学科設立のための文部省への概算要求にも同様の内容が書かれています。

「エコロジー工学が目指しているものは、環境と生態の関係を生と循環の立場から掘り下げ、環境保全を実現しつつ、健全な発展を支援するための工学体系を確立することである。遺伝子等の分子生物学的追及、生体機能の解析、センサーの開発、電磁気等による細胞制御、等の基礎知識をもとに、微生物や物理的手法を利用する環境保全技術や清浄燃焼技術、廃棄物処理と有効利用、地球規模の汚染物質の拡散問題、等へと展開させ、複雑な循環系の中で、人類が環境と調和していくために必要な工学体系の確立へとつなげていく。」

設立から12年の時が経過し、その成果はどうであったかと問われる時期に来ています。まずエコロジー工学という教育内容は何であり、それが学生に伝わったかということが、たいへん重要な問題です。といいましますのは、どのような科目に重点を置くかを定めることは極めて難しいからです。複合領域の研究・技術開発を進めるためには、多くの分野の基礎知識が必要です。かといって、既存学科の基礎科目をつまみ食いの勉強したら良いとも思われません。系内で多くの議論を行った結果、工学の基礎でありエンジニアの共通言語である数学に重点を置き、また今後外国とのコミュニケーションもますます必要になるので、英語が使えるようにすることを重点としました。なかには、研究に数学など使わないから必要ない、という意見もありましたが、生物や化学系の研究を進める上でも今後ま

ます工学的センスが重要になってくるので、数学を共通基礎としました。それ以外は研究に関連して必要になったとき勉強できるよう、それぞれの分野で重要な基礎科目の要点を講義することとしました。これにより、「目に見えないから電気は嫌い」、「亀の甲のような化学式はいやだ」など、従来の専門科目を学ぶことで気付かないうちに形成されることがあるメンタルバリア(ばかの壁?)を作らない教育を目指しました。

今、多くの大学で文科系も融合した複合領域の学科の重要性が認識され、設立されています。複数の専門を学ぶことの重要性が指摘されていますが、これらはエコロジー工学系ではすでに12年前から行っています。この教育の成果が問われるのはこれからであり、良い評価が得られるかどうかは、卒業生皆さんのご活躍にもかかっています。

研究面に関しましては、皆さんの後輩がたいへんがんばっており高い成果をあげています。21世紀COEにも選ばれていますし、産学共同研究などによる外部資金の導入も極めて活発です。エコロジー工学系の現状に関しましては、ホームページ(<http://www.eco.tut.ac.jp/>)もぜひご覧ください。また、身近に受験生がいましたら、ぜひエコロジー工学系を勧めてください。

誰でもつい保守的になりがちですが、新しい領域にチャレンジしていくことはとても大切だと思います。従来の教育を受けられた先輩の中には、複合学科の教育などがつかずが足りないと思われる面もありますが、世の中が大きく変わってきています。先輩のおかげで物質的には世界トップレベルの豊かさを享受できるようになりました。これからの技術や工学に与えられた最大のテーマは健康で幸せな生活に役立つことであると思います。従来の学問で教えられてきた基礎知識は、その基本は必要ですが、必要になったときに教科書やネットワークなどで勉強できます。しかし、新しい世の中を切り拓くためには、問題をいかに見つけるか、目標をいかに的確に設定できるか、という能力・創造力が問われます。

世界有数の物質的豊かさを実現した中での我々が、本当に課題とすることは、今後世界共通の問題となります。繰り返しになりますが、それは多分幸せな生活が持続できることです。この課題を克服していくためには、異なる分野の知識を得られたエコロジー工学系の卒業生・在学生の皆さんの活躍が大いに期待されています。エコロジー工学系のスタッフもがんばります。機会がありましたら卒業された研究室などを訪問して我々や皆さんの後輩に刺激を与えてください。

新任教員より

助教授 西 和久

平成16年8月1日付けで、エコロジー工学系の教員として採用されました。前職の三菱電機(株)では、光、半導体、超伝導など電子工学の分野の研究開発を担当し、その間(株)自由電子レーザ研究所および超先端電子技術開発機構(ASET)で半導体表面・界面についての基礎的な研究にも従事しました。本学では、情報工学に関する講義とこれまでの専門知識を生かしてエコロジー工学という新しい分野に展開する研究を担当します。本学の更なる発展に微力ながら貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



ところで私は30年あまり企業に在職し主に研究畑を歩いてきました。もともと、研究と言いましても企業の研究ですから、それは大学での研究に近いものからむしろ技術開発と言ったほうが適切なものまで幅広い範囲に渡っています。また、研究内容は当然のこととして経営状態に左右され、好景気の時は比較的長期的、すなわち基礎的な研究が可能であり、むしろ企業の将来の基盤を形作るものとして推奨されますが、一旦景気に翳りが見えると短期的な開発研究にシフトし、この30年間もその繰り返しだったような気がします。そして個人が研究テーマを選択する余地は一般的にはなく、私も現場寄りの生産技術から国のプロジェクト研究まで質的量的に異なる仕事に従事して来ました。

それに対して、大学も法人化されて最近は何かとあわただしい状況ですが、やはり大学は直接利益に結びつかないが、学問的あるいは将来技術のために有用な活動を行う機関であることは異論のないところでしょう。エコロジー研究も昨近では環境を無視した技術開発が通用しないことから技術の重要な部分に位置付けられています。しかし、エコロジー工学はその研究対象は地球的規模での物質循環過程を含む複雑な系であり、総合的、学際的な研究が求められています。環境についての個別的な課題に取り組む一方その有効な方法論の研究開発も同時に行う必要があります。これらの研究を系統的、総合的に実施するにはやはり大学は最適な機関です。大学に職を得た者として遅まきではありますがエコロジー工学の分野にささやかな貢献でもできたらと思っております。

(編注・西先生は、昨年度の会報にてご紹介すべきところ、編集作業日程の都合で間に合いませんでしたので、本年度の新任ではごさいませんが本号に掲載させていただきます。)

新任教員より

教務職員 梅 影 創

平成17年7月1日より教務職員として着任いたしました梅影創(うめかげそう)です。着任前は東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻において、PURESYSTEM(ご存知の方もおられることと思います)という蛋白質合成に必須な因子のみから構成された生体外蛋白質合成系を用いて大腸菌の蛋白質合成過程を研究していました。



元来、生命の起源を科学的に解明できればと思い、生命活動の中心的な役割を担う蛋白質合成系を中心に研究を進めてきたわけですが、生命の起源つながりと言うことで、RNA進化の研究を行うことになりました。RNA進化の研究を行う上で避けては通れないものとして、生命はRNAから始まったとされる「RNAワールド仮説」が提唱されており、広く受け入れられています。しかし、仮説は単なる仮説に過ぎないという考えと、世の中の流行には従いたくないという捻くれた思いから、これまで忌避していたRNAワールド仮説がいよいよ眼前にちらつき始め、今や避けては通れないものになってしまいました。

それはさて置き、生命活動の中心的な役割を担う蛋白質合成過程を研究していく中で、生命システムは常に生成と分解の微妙なバランスの上に成り立つ非常にデリケートなものであることを学びました。不安定性の中に安定性を含むからこそ、生命はこれほどまでに複雑で謎に満ち溢れたものになったのではないかと思えてなりません。この生命システムの微妙なバランスを理解することができれば、生命原理を知る手がかりになるでしょうし、制御することが可能になれば、工学や医療などさまざまな分野での応用が期待できると考えています。遺伝情報そのものから、その表現形としての蛋白質の機能や発現に世の中の興味が移行した感のある昨今、生体内のイベントだけでなく、細胞間のコミュニケーション、或いは生命を取り巻く環境に対しても「制御」という概念が密接に結びついてくるのではないかと考えています。

これからは「制御」を合言葉に、生体内外を問わずに使用できる機能性RNAの開発を目指します。また、生体外の制御システムとしてPURESYSTEMのようなconstructive biologyや、生体内の制御システムとしてsynthetic biologyの手法を積極的に生かした研究ができればと思います。若輩者ではありますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

エコロジー工学系 トピックス

「未来環境エコデザインリサーチセンター」の設置について

法人化により大学の組織改変が自由になったため、分野を超えた横断的研究体制を組織し、学外諸機関との連携による研究開発や人材育成を積極的に推進するよう、今年度、本学に3つのセンターが新たに設置されました(写真1)。そのひとつが、未来環境エコデザインリサーチセンター(Interdisciplinary Future Environment Ecological Design Research Center, 略称InFEED)です(図および写真2)。このセンターは、21世紀COE拠点形成プログラム「未来社会の生態恒常性工学」を支援するとともに、当該分野の更なる発展を継続的に担う研究拠点となっています。センター長は、藤江幸一教授、専任助教授1名(大門), 兼任教員(教授および助

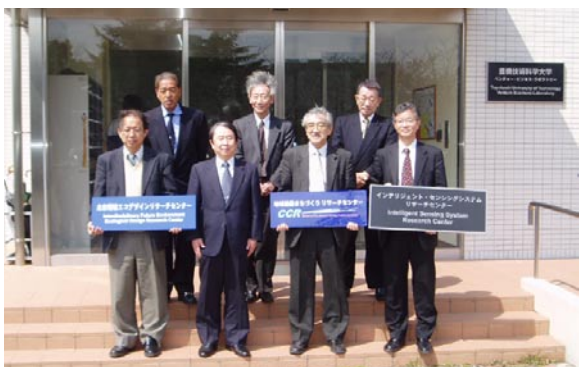


写真1 (前列左: 藤江センター長)

大学職員として・・・

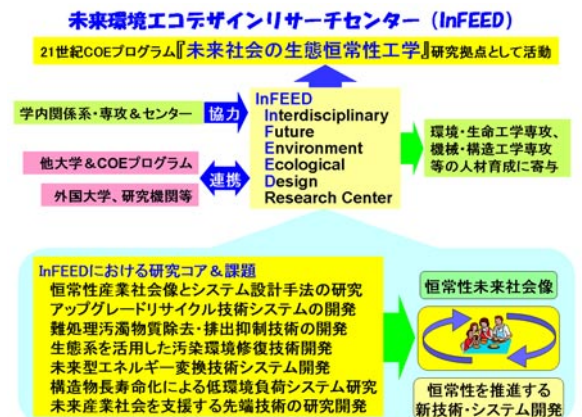
卒業生、修了生のみならずみなさんいかがお過ごしでしょうか? 各分野の最前線でご活躍のことと思います。私は母校である豊橋技術科学大学に就職してから早1年近くが経とうとしています。現在、私は学務課教務係でお世話になっており、学生の成績管理や履修登録受付など、主に学生と接する仕事を行っています。恥づかしながら学生の時は、学務課と学生課の区別もつかなかったのですが、今こうして職員として働いていると思うと、とても不思議な気持ちになります。学生時代、色々な方達に支えられていたように、今度は私が一職員として、技科大生が大いに研究や遊びに励み、たくさん思い出を作ってもらえよう、お役に立ちたいと思います。(エコロジー工学系6期生 坂巻名津子)



教授) 計13名、事務補佐員が配置され、COEプログラムと共通する7研究コアによる研究に加えて、COEに係る国際シンポジウム、成果報告会、市民向けイベント等の企画・運営を担当しています。

詳しくは、21世紀COE拠点形成プログラム「未来社会の生態恒常性工学」ホームページ<http://coe.eco.tut.ac.jp/>をごらんください。

(InFEED専任助教授 大門裕之)



COE常設展示場およびリサーチセンター事務室

G棟6階センター事務室



写真2 (センター事務室とCOE常設展示場)

国立科学博物館に出展!

“上野の山 発 旬の情報発信シリーズ展(国立科学博物館)～21世紀COE拠点形成プログラム「未来社会の生態恒常性工学」～”

エコロジー工学系・建設工学系では、平成15年度の21世紀COE拠点形成プログラム「未来社会の生態恒常性工学」の採択以来、これまでに21世紀の恒常性未来社会の実現に向けた様々な研究成果を挙げてきております。そこで、来る平成18年3月10日から3月19日まで週末も含めた10日間、国立科学博物館(東京都・上野)において、それらの研究成果の展示会及び招待講演を開催することとなりました。

つきましては、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、是非ともご来場いただきたくお願い申し上げます。

(COE博士研究員 立花潤三)

研究室だより

金研究室の紹介

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で日々ご健勝のことと思います。それでは、金研究室の近況を報告致します。

現在の金研究室の構成は、金熙濬助教授、南巨教務職員以下、研究員2名、博士課程4名、修士課程3名、学部生7名の計16名です。研究室は総合研究実験棟の703-2号室にあります。現在の研究は、大別すると環境系と材料系とに分けられ、それぞれ3つずつ、計6つのテーマで研究を行っています。

環境系①『含フッ素化合物の高効率分解技術の開発』

含フッ素化合物は、フロン類によるオゾン層破壊効果や地球温暖化効果など、地球環境への影響が懸念され排出削減が求められています。本研究室では、これらの高効率分解技術の開発を行っています。

環境系②『流動床燃焼装置を用いたバイオマスのガス化』

バイオマスは、カーボンフリー（大気中のCO₂濃度が増加しない）のエネルギー資源として、注目を集めています。本研究室では、これらバイオマスを直接燃焼させることによりエネルギーとするのではなく、バイオマスから水素などのガス化したエネルギー資源を取り出す研究を行っています。

環境系③『プラズマ内におけるPFC類の分解挙動調査』

PFCは半導体産業において、クリーニングガスやエッチングガスなどとして用いられていますが、非常に地球温暖化効果の大きい物質です。これらのプラズマ中での挙動は明確でないため、その挙動を明らかに



することで、PFC量削減が可能となると考えられます。
材料系①『ナノ粒子アルミナの合成とその応用』

アルミナは耐食性、耐摩耗性、生物親和性に優れるため、生体材料、電子材料に応用が可能です。特にナノ材料を用いることで低温焼結、超可塑性を得ることが出来ます。

材料系②『ECR-CVD法によるZnO薄膜の合成』

ZnOは、透明導電膜を作るために必要な化合物で、具体的には、液晶や太陽電池などに用いることが出来ます。本研究室では、ZnOの透明導電膜をECR-CVD装置を用いて低コストで高効率に合成する技術の開発を目指しています。

材料系③『CVD法によるAlN薄膜の合成』

AlNは優れた電気特性を持つ化合物で半導体に用いられています。本研究室では、CVD法を用いた高配向性を持つAlN薄膜の合成とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。

最後になりますが、皆様のますますのご活躍、ご発展をお祈りいたします。（修士2年 林伸哉）

エコロジエ工学系教職員の現況（平成17年9月）

[生物基礎工学大講座]

教授：菊池 洋、平石 明
助教授：辻 秀人、浴 俊彦、田中 照通
助手：二又 裕之
教務職員：梅影 創

[生物応用工学大講座]

教授：水野 彰、藤江 幸一、田中 三郎
助教授：西 和久、桂 進司、後藤 尚弘、
大門 裕之（InFEED専任）
助手：安田 八郎、高島 和則、廿日出 好

[生物応用工学大講座]

教授：鷺田 伸明、北田 敏廣、木曾 祥秋、
松為 宏幸（副学長）
助教授：金 熙濬、成瀬 一郎
助手：倉田 学児、小口 達夫
教務職員：南 亘

[技術専門職員] 坂井 悦子

[事務職員] 前田 奈津子（産休）、赤澤 雅子（非常勤）
田中 園枝（派遣）

8系同窓会 会計収支報告

（平成16年9月～平成17年3月分）

（同窓会本体の会計年度に合わせるため、今回は前年度末までの報告に致します）

項目	金額（円）
〈収入の部〉	
前年繰り越し金	3,805,459
会費（各系分配分）	530,000
預金利息	17
収入合計	4,335,476
〈支出の部〉	
会報発送費	85,009
フォーラムイン東京経費	36,000
次年度繰越金	4,214,467
支出合計	4,335,476

第九学系

人文・社会工学系より

学内近況報告

吉村 弓子

平成16年9月2日から平成17年9月1日までの人事異動をご報告します。

未来技術流動研究センターの古川先生は、3月末日をもって定年退職なされ、4月から新潟産業大学で教えていらっしゃいます。また、留学生センターの岩本先生は学内の未来技術流動研究センターに異動なされ、後任には林先生が着任なさいました。語学センター教務職員の鈴木さんは、第2子出産・育児のための休暇をおとりになり、木内さんが代役を果たしてくださっています。体育・保健センターの柳原先生は東京大学に転出され、佐久間先生が新たに赴任されました。渋澤先生と村松先生は、それぞれ講師から助教授に昇進され益々活躍していらっしゃいます。

〈教職員一覧〉

[人文・社会工学系]

教授：山本 淳（系長：併）、浜島昭二、藤原孝男、
宮田 謙、山口 誠

助教授：相京邦宏、尾碇一志、渋澤博幸、中森康之、
西村政人、平松登志樹

外国人教師：David Levin

[語学センター]

教授：小杉隆芳（センター長）、伊藤光彦、山本 淳

講師：田村真奈美

教務職員：木内香代子

[留学生センター]

教授：山口 誠（センター長：併）、氏平 明

助教授：加藤三保子、林 孝彦、村松由起子、
吉村弓子

[体育・保健センター]

教授：安田好文（センター長）

助教授：佐久間邦弘

[未来技術流動研究センター]

教授：岩本容岳

助手：白川正知

[工学教育国際協力研究センター]

助教授：黒田清彦

9系教官の研究論文・研究報告・研究資料の一端は、人文・社会工学系紀要『雲雀野』で紹介しています。最新号の目次を掲げておきます。本学図書館、各系事務室他、全国大学・高専図書館、国立国会図書館などに収めています。

『雲雀野』第27号目次

- ・ 山口誠「計量経済学的手法の小地域社会経済モデルへの適用」
- ・ 渋澤博幸、ピーター・ベイティ「英国と日本における都市政策評価手法の比較研究（1）」
- ・ 山本淳「フロイトの『否認』」
- ・ 伊藤光彦「語彙意味論の史的考察：単語連想の視点から」
- ・ 田村真奈美「『ジェイン・エア』における肉体と魂をめぐる言説」
- ・ デイヴィット・レヴィン「外国語としての英語教育カリキュラムにおけるCALLの有効性についての発展的研究」
- ・ 川名真弓「偉大なる異教の融合—『翼ある蛇』におけるケルトとメキシコ」
- ・ ジョーセフ・ブルート「アイルランド系アメリカ人の移住」
- ・ 中森康之「臆病者の文章表現」
- ・ 黒田清彦「国際機関による教育協力政策の動向と課題」
- ・ 佃隆一郎「戦前軍縮期の高師・天伯原における「演習地賠償問題」について」

第54回東海地区国立大学体育大会総合成績一覧（男女団体別）

平成17年6月25～26日、7月2～3日の日程で、第54回東海地区国立大学体育大会が開催されました。

(以下成績表一覧)

項目	順位	優 勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備 考
1 陸上競技	男	愛教大 10	静岡大 8	岐阜大 6	名大 5	三重大 4	名工大 3	豊技大 2	浜松医科 1	
	女	愛教大 8	静岡大 6	三重大 5	岐阜大 4	名大 3	名工大 2	浜松医科 1		
2 水 泳	男	名大 10	静岡大 8	三重大 6	岐阜大 5	愛教大 4	名工大 3	浜松医科 2	豊技大 1	
	女	岐阜大 8	愛教大 6	三重大 5	名大 4	浜松医科 3	静岡大 2	名工大 1		
3 硬式野球		三重大 8	静岡大 6	名大 5	豊技大 4	岐阜大・名工大・愛教大 各2				
4 準硬式野球		三重大 10	愛教大 8	名大 6	豊技大 5	岐阜大・名工大・浜松医科・静岡大 各2.5				
5 テニ ス	男	名大 10	浜松医科 8	静岡大 6	名工大 5	三重大・岐阜大・豊技大・愛教大 各2.5			7/2・3	
	女	名大 8	浜松医科 6	岐阜大 5	愛教大 4	三重大・名工大・静岡大 各2			7/2・3	
6 ソフトテニス	男	静岡大 8	三重大 6	愛教大 5	名工大 4	名大 3	浜松医科 2	岐阜大 1		
	女	愛教大 6	三重大 5	静岡大 4	岐阜大 3	浜松医科 2	名大 1			
7 バスケットボール	男	岐阜大 10	名大 8	静岡大 6	名工大 5	愛教大 4	豊技大 3	三重大 2	浜松医科 1	
	女	愛教大 5	三重大 4	名大 3	岐阜大 2	浜松医科 1				
8 バレーボール	男	愛教大 10	名大 8	岐阜大 6	名工大 5	静岡大 4	豊技大 3	三重大 2	浜松医科 1	
	女	愛教大 6	岐阜大 5	三重大 4	静岡大 3	名大 2	浜松医科 1			
9 卓 球	男	岐阜大 8	名大 6	静岡大 5	三重大 4	名工大 3	愛教大 2	豊技大 ^{棄権}		
	女	三重大 6	静岡大 5	名大 4	岐阜大 3	愛教大 2	名工大 1			
10 バドミントン	男	名大 10	岐阜大 8	三重大 6	静岡大 5	名工大 4	浜松医科 3	豊技大 2	愛教大 1	7/2・3
	女	名大 8	静岡大 6	三重大 5	岐阜大 4	愛教大 3	浜松医科 2	名工大 1		7/2・3
11 サ ッ カ ー		静岡大 10	三重大 8	岐阜大 6	名大 5	浜松医科 4	愛教大 3	名工大 2	豊技大 1	
12 ハンドボール	男	愛教大 8	岐阜大 6	静岡大 5	名工大 4	名大 3	三重大 2	浜松医科 1		
	女	岐阜大	三重大							オープン
13 柔 道		岐阜大 8	静岡大 6	名大 5	愛教大 4	三重大 3	名工大 2	豊技大 ^{棄権}		
14 剣 道	男	名大 8	愛教大 6	静岡大 5	三重大 4	岐阜大・名工大・豊技大 各2				
	女	静岡大 5	愛教大 4	名大 3	三重大 2	岐阜大 1				
15 体 操	男	岐阜大 5	名大 4	静岡大 3	三重大 2	愛教大 1				
	女	静岡大	名大	岐阜大						オープン
16 馬 術		三重大 6	名工大 5	愛教大 4	名大・岐阜大・静岡大 各2					
17 空 手 道	男	浜松医科 10	静岡大 8	岐阜大 6	三重大 5	名大 4	名工大 3	豊技大 2	愛教大 1	
	女	浜松医科 8	名大 6	静岡大 5	三重大 4	岐阜大 3	名工大 2	豊技大 1		
18 弓 道	男	岐阜大 8	名大 6	名工大 5	静岡大 4	三重大・愛教大・浜松医科 各2			7/3	
	女	三重大 8	愛教大 6	岐阜大 5	名大 4	名工大 3	静岡大 2	浜松医科 1		7/2
19 アーチェリー	男	名大 5	岐阜大 4	三重大 3	静岡大 2	愛教大 1				
	女	名大 4	三重大 3	岐阜大 2	愛教大 1					
20 少林寺拳法		名大 6	愛教大 5	三重大 4	静岡大 3	岐阜大 2	名工大 1			
総合順位	男	名大	静岡大	岐阜大	三重大	愛教大	名工大	浜松医科	豊技大	
	女	三重大	愛教大	名大	岐阜大	静岡大	浜松医科	名工大	豊技大	

平成16年度 卒業・修了者就職先一覧

平成17年5月1日現在

No.	企業名	等	工学部	修士	博士	合計
1	(株) デンソー		0	5	0	5
2	(株) トヨタマックス		0	5	0	5
3	(株) 東芝		0	3	1	4
4	マツダ(株)		1	3	0	4
5	清水建設(株)		1	2	0	3
6	新東工業(株)		0	3	0	3
7	スズキ(株)		0	3	0	3
8	住友電装(株)		1	2	0	3
9	セイコーエプソン(株)		0	3	0	3
10	中部日本電気ソフトウェア(株)		0	3	0	3
11	(株)トヨタコミュニケーションシステム		0	3	0	3
12	豊橋技術科学大学		0	0	3	3
13	日産自動車(株)		0	3	0	3
14	(株)日立製作所		0	3	0	3
15	松下電器産業(株)		0	3	0	3
16	三菱電機(株)		0	2	1	3
17	矢崎総業(株)		0	3	0	3
18	ローム(株)		0	2	1	3
19	アイシン精機(株)		0	2	0	2
20	アイシン高丘(株)		0	1	1	2
21	アスモ(株)		0	2	0	2
22	(株)アルプス技研		0	2	0	2
23	NTTデータテクノロジ(株)		0	2	0	2
25	(株)キャタラー		0	2	0	2
26	キヤノン(株)		0	1	1	2
27	倉敷紡績(株)		0	2	0	2
28	(株)神戸製鋼所		0	2	0	2
29	光洋精工(株)		0	2	0	2
30	コニカミノルタビジネステクノロジー(株)		0	2	0	2
31	独立行政法人産業技術総合研究所		0	0	2	2
32	シャープ(株)		0	2	0	2
33	住商情報システム(株)		0	2	0	2
34	ソニーイーエムシーエス(株)		0	2	0	2
34	ソニーエナジーデバイス(株)		0	2	0	2
35	第一精工(株)		1	1	0	2
36	大同特殊鋼(株)		0	2	0	2
37	谷山建築設計事務所		0	2	0	2
38	テクノシステム(株)		1	0	1	2
39	デンソーテクノ(株)		0	2	0	2
40	トヨタ自動車(株)		0	1	1	2
41	トヨタすまいるライフ(株)		2	0	0	2
42	名古屋大学		0	0	2	2
43	日本精工(株)		0	2	0	2
44	(株)ニテック		0	2	0	2
45	浜松ホトニクス(株)		0	2	0	2
46	日立金属(株)		0	2	0	2
47	(株)日立情報システムズ		0	2	0	2
48	(株)日立ハイテクノロジーズ		0	2	0	2
49	日立ホーム&ライフソリューション(株)		0	2	0	2
50	(株)ヒミカ		0	2	0	2
51	ファナック(株)		0	2	0	2
52	(株)VSN		0	2	0	2
53	富士通サポート&サービス(株)		0	2	0	2
54	(株)富士通システムソリューションズ		0	2	0	2
55	富士通テン(株)		1	1	0	2

No.	企業名	等	工学部	修士	博士	合計
56	フタバ産業(株)		0	2	0	2
57	三菱重工業(株)		0	2	0	2
58	武蔵精密工業(株)		1	1	0	2
59	村田機械(株)		0	2	0	2
60	明治乳業(株)		0	2	0	2
61	株森精機製作所		0	2	0	2
62	Ministry of Land Management, Urban Planning and Construction		0	1	0	1
63	PERODUA MANUFACTURING SDN BHD		0	1	0	1
64	S a m s u n g S D I		0	0	1	1
65	SYIAH KUALA UNIVERSITY		0	1	0	1
66	University of the Free State		0	0	1	1
67	University Sains Malaysia		0	0	1	1
68	UNIVERSITY SCIENCE OF MALAYSIA		0	1	0	1
69	愛三工業(株)		0	1	0	1
70	アイシン・エイ・ダブリュ(株)		0	1	0	1
71	アイシン・エンジニアリング(株)		0	1	0	1
72	愛知県(建築)		0	1	0	1
73	愛知県警察		1	0	0	1
74	愛知ゼロックス(株)		0	1	0	1
75	(株) A I H O		1	0	0	1
76	(株) A C C E S S		0	1	0	1
77	旭エンジニアリング(株)		0	1	0	1
78	旭化成エレクトロニクス(株)		0	1	0	1
79	(株)アドテックプラズマテクノロジー		0	1	0	1
80	(株)アドバンテスト		0	1	0	1
81	(株)アプロ		0	1	0	1
82	(株)アルバック		0	1	0	1
83	(株)アルファシステムズ		0	1	0	1
84	阿波製紙(株)		0	1	0	1
85	アンダラス大学		0	1	0	1
86	安中市役所		0	1	0	1
87	アンリツ(株)		0	1	0	1
88	(株)飯島建築事務所		0	1	0	1
89	石友ホーム(株)		1	0	0	1
90	(株)一条工務店		1	0	0	1
91	(株) I N A X		0	1	0	1
92	イビケン(株)		1	0	0	1
93	(有)今井設計事務所		0	1	0	1
94	岩本鋼業(株)		0	1	0	1
95	(株)ヴィッツ		0	1	0	1
96	(株)浦野設計		0	1	0	1
97	営電(株)		0	1	0	1
98	ATMI ジャパン(株)		0	0	1	1
99	(有)エス・ティ・ブレイズ		0	1	0	1
100	エヌ・ティ・ティ・データ・テクノロジ(株)		0	1	0	1
24	(株)NTTドコモ関西		0	1	0	1
24	(株)NTTドコモ東海		0	1	0	1
101	(株)エヌ・ティ・ティファシリティーズ		0	1	0	1
102	N T T (株)		0	1	0	1
103	N T ツール(株)		0	1	0	1
104	NECアクセステクノカ(株)		0	1	0	1
105	NECエレクトロニクス(株)		0	1	0	1
106	NECシステムテクノロジー(株)		0	1	0	1
107	NECモバイリング(株)		0	1	0	1
108	(株)NSソリューションズ東京		0	1	0	1

No.	企業名	等	工学部	修士	博士	合計
109	エンシュウ(株)		1	0	0	1
110	王子製紙(株)		0	1	0	1
111	オーエスジー(株)		0	1	0	1
112	大岡技研(株)		1	0	0	1
113	大倉建設(株)		1	0	0	1
114	大阪府都市開発(株)		1	0	0	1
115	小野薬品工業(株)		0	1	0	1
116	オムロン(株)		0	1	0	1
117	オリエンタル建設(株)		0	1	0	1
118	カヤバ工業(株)		0	1	0	1
119	(株)カワサキプレジジョンマシナリ		0	1	0	1
120	(株)環境シミュレーション		0	1	0	1
121	環境エンジニアリング(株)		0	1	0	1
122	関西学院大学理工学部		0	0	1	1
123	菊川工業(株)		0	1	0	1
124	気象庁富山地方气象台		0	1	0	1
125	財団法人北九州市環境整備協会		1	0	0	1
126	紀本電子工業(株)		1	0	0	1
127	京セラ(株)		0	1	0	1
128	キンセイマテック(株)		1	0	0	1
129	(株)クマヒラ		0	1	0	1
130	(株)倉橋英太郎建築設計事務所		1	0	0	1
131	クラブツーリズム(株)		0	1	0	1
132	(株)グローバルエース		0	1	0	1
133	(株)ケイ・アイケンキュー		0	1	0	1
134	(株)KEC(韓国電子)		0	1	0	1
135	(株)ケンウッド		0	1	0	1
136	(株)コアー建築工房		0	1	0	1
137	(株)構造計画ケンキュー		0	1	0	1
138	個人企業		1	0	0	1
139	コスモ石油(株)		0	1	0	1
140	寿工業(株)		0	1	0	1
141	(株)コベルコ科研		0	1	0	1
142	(株)小松製作所(インドネシア)		0	0	1	1
143	サーラ住宅(株)		0	1	0	1
144	堺市高石市消防組合		1	0	0	1
145	(株)サムソン		0	1	0	1
146	(株)サムテック		0	1	0	1
147	三機工業(株)		1	0	0	1
148	(株)三協精機製作所		0	1	0	1
149	三洋電機(株)		0	1	0	1
150	山陽特殊製鋼(株)		1	0	0	1
151	山陽マシン(株)		0	1	0	1
152	三和工機(株)		0	1	0	1
153	三和油化工業(株)		0	1	0	1
154	(株) C I J		0	1	0	1
155	ジエールサイエンス(株)		0	1	0	1
156	C K 金属(株)		0	1	0	1
157	CDS(株)(Chuo Digital Solntion)		0	1	0	1
158	(株) J i g . J p		1	0	0	1
159	(株)JR東日本情報システム		0	1	0	1
160	自衛隊		1	0	0	1
161	滋賀県警察本部		0	1	0	1
162	シグマトロン(株)		0	1	0	1
163	(株)システムアドフォース		1	0	0	1

No.	企 業 名 等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
164	志摩環境事業協業組合	1	0	0	1
165	(株)シマファインプレス	0	1	0	1
166	(株) ジャートコ	0	1	0	1
167	(株) シャルマン	0	1	0	1
168	(株) 住居時間	0	1	0	1
169	ジョンソンコントロールズ(株)	0	1	0	1
170	信越ポリマー(株)	0	1	0	1
171	(株)神鋼環境ソリューション	0	1	0	1
172	新日本空調(株)	0	1	0	1
173	(株)ススキビジネス	0	1	0	1
174	住電エレクトロニクス(株)	0	1	0	1
175	住友金属鉱山(株)	0	1	0	1
176	セイコープレジション(株)	0	1	0	1
177	積水ハウス(株)	1	0	0	1
178	(有)赤土善蔵アトリエ	0	1	0	1
179	積和不動産中部(株)	0	1	0	1
180	創建ホーム(株)	1	0	0	1
182	ソニーエレクトロニクスモバイル コミュニケーションズ(株)	0	1	0	1
184	(株)ソミック石川	0	1	0	1
185	(株)大気社	1	0	0	1
186	ダイキン工業(株)	0	1	0	1
187	(株)ダイフク	0	1	0	1
188	(株)太平エンジニアリング	0	1	0	1
189	太平洋工業(株)	0	1	0	1
190	太陽化学(株)	0	1	0	1
191	太陽誘電(株)	0	1	0	1
192	(株)高須ポーリング	0	0	1	1
193	(株)タクマ	0	1	0	1
194	(株)タダノ	0	1	0	1
195	(株)ダッド	1	0	0	1
196	(株)立岩	0	1	0	1
197	(株)地域計画建築ケンキュウ	0	1	0	1
198	社団法人 地域問題ケンキュウ	0	1	0	1
199	中央システム(株)	1	0	0	1
200	中国許継電気(株)	0	1	0	1
201	(株)中日電子	0	1	0	1
202	中部テレコミュニケーション(株)	0	1	0	1
203	月島機械(株)	0	1	0	1
204	(株)デイスコ	0	1	0	1
205	(株)テクノクラフト	0	1	0	1
206	(株)テクノスマイル	0	1	0	1
207	デュプロ販売(株)	1	0	0	1
208	(株)デンソークリエイティブ	1	0	0	1
209	東海カーボン(株)	0	1	0	1
210	東海光学(株)	0	1	0	1
211	東京電力(株)	0	1	0	1
212	東芝ITコントロールシステム(株)	0	1	0	1
213	東芝産業機器製造(株)	0	1	0	1
214	東芝情報システム(株)	0	1	0	1
215	東セロ(株)	0	1	0	1
216	東陶機器(株)	0	1	0	1
217	東部ガス(株)	1	0	0	1
218	東北大学多元物質科学ケンキュウ	0	0	1	1
219	東レエンジニアリング(株)	0	1	0	1
220	東レ(株)	1	0	0	1
221	(株)トーエネック	0	1	0	1
222	(株)トーマコーポレーション	0	1	0	1
223	鳥取県庁	0	1	0	1
224	鳥取三洋電機(株)	1	0	0	1

No.	企 業 名 等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
225	トビー工業(株)	0	1	0	1
226	巴工業(株)	0	1	0	1
227	富山商船高等専門学校	0	0	1	1
228	豊川市役所	0	1	0	1
229	(株)豊田自動織機	0	1	0	1
230	トヨタ車体(株)	0	1	0	1
231	(株)トヨタテクノサービス	0	1	0	1
232	トヨタ紡織(株)	0	1	0	1
233	トヨタホーム名古屋(株)	0	1	0	1
234	豊橋市役所	0	1	0	1
235	(株)豊橋造船	0	1	0	1
236	(株)内藤建築事務所	0	1	0	1
237	ナカシャクリエイテブ(株)	0	1	0	1
238	(株)中村塗装店	0	1	0	1
239	新潟中央ホーム(株)	0	1	0	1
240	西日本電信電話(株)	0	1	0	1
241	日亜化学工業(株)	0	1	0	1
242	日信工業(株)	0	1	0	1
243	日新電機(株)	0	1	0	1
244	日進乳業(株)	0	1	0	1
245	(株)ニッセイ	0	1	0	1
246	日精エー・エス・ピー機械(株)	0	1	0	1
247	日本アイ・ビー・エム(株)	0	0	1	1
248	日本アルシー(株)	0	1	0	1
249	日本板硝子(株)	0	1	0	1
250	日本空調サービス(株)	0	1	0	1
251	(株)日本システムティペロップメント	0	1	0	1
252	日本信号(株)	0	1	0	1
253	日本電気(株)	0	1	0	1
254	日本電気硝子(株)	0	1	0	1
255	日本電産シンボ(株)	0	1	0	1
256	日本特殊陶業(株)	0	1	0	1
257	(株)日本パーツセンター	1	0	0	1
258	日本プロセス(株)	0	1	0	1
259	能美防災(株)	0	1	0	1
260	(株)ハーモニック・ドライブ・システムズ	0	1	0	1
261	(株)パスコ	0	1	0	1
262	パナソニックAVCマルチメディアソフト(株)	0	1	0	1
263	浜名エンジニアリング(株)	1	0	0	1
264	(株)ハルケンキュウ	1	0	0	1
265	(株)P F U	1	0	0	1
266	(株)日立エンジニアリングサービス	1	0	0	1
267	日立オムロン・ミナルソリューションズ(株)	0	1	0	1
268	日立造船(株)	1	0	0	1
269	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)	0	1	0	1
270	(株)日立ハイコス	0	1	0	1
271	日立プラント建設(株)	1	0	0	1
272	日野自動車(株)	0	0	1	1
273	兵庫県警察	1	0	0	1
274	(株)ヒラテ技研	0	1	0	1
275	広島商船高等専門学校	0	0	1	1
276	LG. PHILIPS LCD	0	1	0	1
277	(株)フジ医療器	0	1	0	1
278	(株)富士カーボン製造所	0	1	0	1
279	富士写真フィルム(株)	0	1	0	1
280	(株)不二設計	0	1	0	1
281	富士ソフトABC(株)	0	1	0	1
282	富士通(株)	0	1	0	1
283	(株)富士通アドバンスソリューションズ	0	1	0	1

No.	企 業 名 等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
284	(株)富士通プライムソフトテクノロジ	0	1	0	1
285	フジノン水戸(株)	0	1	0	1
286	船井電機(株)	0	1	0	1
287	ブラザー工業(株)	1	0	0	1
288	(株)ブリヂストン	1	0	0	1
289	(株)ベルソニカ	0	1	0	1
290	ベントックス(株)	0	1	0	1
291	(株)放送衛星システム	0	1	0	1
292	(株)保坂組	1	0	0	1
293	本田技研工業(株)	0	1	0	1
294	前田建設工業(株)	0	1	0	1
295	松下システムテクノ(株)	0	1	0	1
296	(株)松下電器情報システム 名古屋ケンキュウ	0	1	0	1
297	松下半導体エンジニアリング(株)	0	1	0	1
298	(株)マップクエスト	0	1	0	1
299	マルチシステムグループ 駿河テラミカルセンター	0	1	0	1
300	(株)MARUWA	0	1	0	1
301	三浦工業(株)	0	1	0	1
302	(有)三城設計	1	0	0	1
303	三井造船(株)	0	1	0	1
304	三菱自動車工業(株)	0	1	0	1
305	三菱電機エンジニアリング(株)	0	1	0	1
306	三菱電機コントロールソフトウェア(株)	1	0	0	1
307	三菱電機メカトロニクスソフトウェア(株)	0	1	0	1
308	(株)夢真	1	0	0	1
309	(株)メイテック	0	1	0	1
310	(株)メイテックコム	0	1	0	1
311	(株)明電舎	0	1	0	1
312	名豊観光(株)	1	0	0	1
313	(株)メノガイア	1	0	0	1
314	(株)安永	1	0	0	1
315	(株)山武	0	1	0	1
316	ヤマトエスロン(株)	0	1	0	1
317	ヤマハ(株)	0	1	0	1
318	ヤマハ発動機(株)	0	1	0	1
319	(株)ユアサコーポレーション	0	0	1	1
320	ユナイテッド電子(株)	1	0	0	1
321	ユニ・チャーム(株)	0	1	0	1
322	(株)ユニホ	0	1	0	1
323	陽地鋼建築新材料(上海)有限公司	0	1	0	1
324	吉川工業(株)	0	1	0	1
325	吉村建設工業(株)	1	0	0	1
326	(有)ラーナーズ・セントラル	0	1	0	1
327	ランボン大学	0	0	1	1
328	(株)リコー	0	1	0	1
329	リコーエレメックス(株)	0	1	0	1
330	リンナイ(株)	0	1	0	1
331	(株)レオパレス21	0	1	0	1
332	レシップ(株)	0	1	0	1
333	(株)ロイズコンフェクト	0	1	0	1
334	ローランドディージー(株)	0	1	0	1
335	(株)ロゼフテクノロジー	1	0	0	1
336	(株)和田建築技術ケンキュウ	0	1	0	1
	合 計	60	333	28	421

※ 社会人卒業・修了者の復職を除く

同窓会事務局より会員の皆様へ

— 独立法人化後の同窓会のあり方について —

同窓会会長 (5系4期) 後 藤 泰 男

(E-mail: goto@i2.inax.co.jp)

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃の豊橋技術科学大学同窓会へのご支援、ご協力誠にありがとうございます。

さて、国立大の法人化後初となる2004年度決算で、全89大学のうち88大学で総利益が計約千億円となり、最も利益が多かった大阪大学では71億円の総利益をあげたことが、今年9月の多くの新聞に掲載されていました。本学における財務諸表についても平成17年8月末に公表されており、経常利益が3千万円となったことが報告されています。(大学ホームページにて公開) 大学と経常利益というつながりに違和感を覚えた同窓生も多いかと思いますが、大学がまさに大きく変わろうとしていることが実感できた記事ではなかったでしょうか。

私は豊橋技術科学大学が独立法人化されて以来、諸先輩方には大変僭越ではありますが同窓生の代表として大学の経営協議会に参加させていただいております。このことは、同窓会への役割期待が大きく変化し、大学運営を積極的にサポートするよう同窓会にも大きな変革を求められていると考えています。

求められる変革に対しまだまだ変革と呼べるものではありませんが、現在同窓会役員会では同窓会の枠組みを変更する検討を始めています。本学は歴史も浅く同窓生の数も少ないことからこれまで全学での同窓会活動を続けてきましたが、会員の数も一万人に達しようとしている現在、同窓生への情報発信等のサポートが十分ではなくなってきました。そこで、同窓生の皆様がより身近に感じる研究室単位あるいは系単位での活動に枠組みを変更することで、よりきめ細かな運営へ変えたいと考えています。具体的には、系毎に同窓会長を定めていただき、それぞれの系毎に活動のあり方を決定していただくことになるかと思っています。

このことは変革への第一歩でもあり、今後独立法人化によりますます変わろうとしている我々の母校をサポートするためには今後の更なる取り組みが重要となります。そして、これらの取り組みへは皆様一人一人の協力なくてはできるものではなく、ますますのご支援、ご協力のほどお願い申し上げまして、結びとさせていただきます。

豊橋技術科学大学同窓生懇親会 (東京) の報告

2005年1月21日大学主催の「知的財産・産学官連携フォーラムin東京」に併せ、同窓会が発足して以降初めて東京(東京厚生年金会館)で全8工学系の同窓生を対象とした懇親会を開催しました。当日は、平日にもかかわらず、同窓生・旧教職員50名、本学教職員28名、来賓1名。同窓会役員15名の計94名の非常に多くの方にお集まりいただき、懇親を深めていただくことができました。

今後も、このような企画を検討していきますので、皆様のご参加をよろしくお願いいたします。



・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（平成16年度～平成17年度）・・・・・・

1. 会報の発行

同窓会報第22号を平成16年12月に発行・発送しました。印刷部数は9000部、発行部数は8000部、残りは会報担当、事務局および各系役員にて保管用ならびに予備としました。

2. 卒業記念パーティーの開催

平成17年3月22日に豊橋勤労福祉会館（アイプラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。当日は佐藤同窓会副会長が列席し、卒業・修了生へ祝辞を贈りました。平成17年度も例年通り行う予定です。

3. 学生活動への援助

従来は、クラブ奨励金、クラブ援助金、技科大祭援助金の3種類でしたが、平成16年度からは、より一層の学生活動の活発化を図るために、援助金総額を増額した上で一括募集を行ない援助することとしました。平成16年度は、ロボコン同好会、軟式野球部、武道部、軽音楽部、吹奏楽部、ラグビー部の6団体に対して計30万円の援助活動を行いました。

4. 総会の開催

平成17年4月23日に豊橋技術科学大学C-204会議室にて総会を開催し、平成12年度から16年度までの同窓会事業報告および収支決算報告、および平成17年度から20年度までの事業計画および収支予算案が承認されました。

5. 役員会の開催

平成17年4月23日に豊橋技術科学大学C-204会議室にて役員会を、同年5月28日に豊橋駅前サテライトオフィスにて第1回臨時役員会を、同年9月26日に大学F-201会議室にて第2回臨時役員会をそれぞれ開催し、本年度の活動予定や30周年記念事業への対応などについて話し合いました。なお、議事録はホームページ上 (<http://www.tut-ob.org/gjjiroku.htm>) でも参照可能です。

6. 西永学長との懇談

平成17年4月23日に西永学長（本会名誉顧問）と本会の後藤会長・佐藤副会長・事務局担当者等との懇談を行い、今後の同窓会の活性化策や名簿管理の在り方、30周年記念事業などについて意見交換を行いました。

7. 同窓生懇親会の開催

平成17年1月21日に開催された大学主催の知的財産・産官学連携フォーラムin東京に併せ、同窓会が発足して以来初めて東京（東京厚生年金会館）で全学の同窓生を対象とした懇親会を開催しました。（参加者総数：約100名）

平成17年度同窓会役員（平成17年9月現在）

会 長：後藤 泰男（株式会社INAX）

副 会 長：佐藤 裕久（豊橋技科大物質工学系）

事 務 局：加藤 博明（豊橋技科大知識情報工学系）

1系役員 (admin-1@tut-ob.org, 会報担当)：関下 信正 山本 高久 感本 広文

2系役員 (admin-2@tut-ob.org, 総会・役員会担当)：三好 孝典 赤堀 俊和 戸高 義一 安部 洋平

3系役員 (admin-3@tut-ob.org, 名簿担当)：西村 一寛 稲田 亮史 村上 義信 桶 真一郎 内海 淳志

4系役員 (admin-4@tut-ob.org, 援助活動)：野口 健太郎 福田 浩士 武田 善行

5系役員 (admin-5@tut-ob.org, HP・ML担当)：大北 博宣 武藤 浩行 齊戸 美弘

6系役員 (admin-6@tut-ob.org, 会計担当)：谷 武 中澤 祥二 細田 智久

7系役員 (admin-7@tut-ob.org, 事務局担当)：渋澤 博幸 加藤 博明 山田 実

8系役員 (admin-8@tut-ob.org, 事務局担当)：小口 達夫 廿日出 好 南 亘

名誉顧問：西永 頌（豊橋技科大学長）

会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費(5,000円)または、終身会費(10,000円)が未納の方は、該当する系の振込先へ納入下さいますようお願い申し上げます。

1系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 791348
加入者名 豊橋技科大第1工学系同窓会

2系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 773671
加入者名 豊友会

3系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

4系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

5系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 791362
加入者名 物質工学系同窓会

6系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 813330
加入者名 建設工学同窓会

7系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884420
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

8系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金
口座番号 884418
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局(TEL: 0532-47-0111)へご一報くださるようお願い申し上げます。また、ホームページ上(<http://www.tut-ob.org/address.htm>)でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用ください。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

同窓会 個人情報管理ポリシー

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。
- ・大学からの開示依頼に対しては、依頼理由を確認の上、電子データではなく宛名シール等、印刷物の形で情報を提供します。

※個人情報の非開示や削除をご希望の方は、同窓会事務局または各系役員までご連絡下さい。

同窓会報への広告

掲載広告を募集しています。詳しくは同窓会事務局までお問合せ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきまして、同窓会では一切の責任を負いません。

同窓会平成 16 年度収支報告および平成 17 年度予算案

項 目	平成16年度予算案	平成16年度決算	平成17年度予算案
■収入の部			
前年度繰越金	10,821,401	10,821,401	11,130,091
入会金	2,150,000	1,964,200	2,235,000
会費	4,300,000	3,860,000	4,470,000
預金利息	800	772	800
小計	6,450,800	5,824,972	6,705,800
収入合計	17,272,201	16,646,373	17,835,891
■支出の部			
会報経費	710,000	708,420	750,000
(印刷代)	700,000	700,420	—
(原稿執筆御礼)	10,000	8,000	—
役員会経費	30,000	58,000	65,000
庶務経費	100,000	68,352	100,000
学生活動援助金	550,420	300,840	300,000
(技科大祭後援金)	—	—	—
(クラブ活動資金援助)	—	300,840	—
卒業記念パーティ援助金	—	250,420	250,000
Web関連経費	53,130	53,130	53,130
各系への会費配分金	4,300,000	3,860,000	4,470,000
同窓会懇親会 (フォーラムin東京)	—	217,120	250,000
小計	5,743,550	5,516,282	6,238,130
次年度繰越金	11,528,651	11,130,091	11,597,761
支出合計	17,272,201	16,646,373	17,835,891

学生活動への援助報告

今年も本学学生活動の活性化を支援する目的で、学生活動援助金を下記のとおり決定し、授与しましたのでご報告致します。本年度も昨年度同様、援助金総額を 30 万円とした上で一括募集を行い、申請書を基に活動状況、支援の必要度を精査した上で下記 5 団体への支援を決定致しました。会員の皆様にもご理解、ご協力を賜りながら、今後とも援助を行って参ります。

(援助活動担当者一同)

バレーボール部、ラグビー部、陸上部、武道部、軽音学部

バレーボール部

生産システム工学課程 4 年 小川 陽平

この度は私たちバレー部に学生活動援助金を頂き誠にありがとうございました。バレー部員一同お礼申し上げます。現在私たちは修士 6 人、学部 20 人 (マネージャー 4 人を含む) の計 26 人で活動しております。活動時間は通常、火、木、土曜でそれぞれスパイクやレシーブ、そしてチーム練習を行い、ときには練習試合を行っております。

バレー部は現在、東海大学の全 6 部中 5 部に所属しており、春と秋に行われる東海大学リーグ戦と夏の東海地区国立大学体育大会の 3 大会に出場しています。しかしこれらの大会の登録費や参加料、ボールなどの道具の購入費を学校から支給されている部費だけでは賄うことができず、個人の負担が非常に大きくなっていました。今回の援助金はボールやケガ予防のテーピング、医薬品類の購入に使わせて頂きたいと考えております。

6 月末に行われた東海地区国立大学体育大会では全 8 チーム中 6 位という残念な結果に終わってしまいましたが、その中でも 1 部や 2 部のチームに勝利し自信をつけることができました。

また 9 月末より東海大学リーグ戦秋期大会が始まるので、優勝と 4 部昇格を目標に部員全員一丸となり練習に励んでいきたいと思っております。今後の活躍にご期待ください。

ラグビー部

エコロジー工学課程 3 年 多田 遊

ラグビー部です。この度は援助して頂き、誠にありがとうございました。部員一同、感謝の気持ちで一杯です。現在部員は修士 12 名、学部 26 名の計 38 名で毎週、火、木、土曜日の 3 日間活動しています。

昨年、長い間の目標であった東海学生ラグビーフットボール連盟主催の大学リーグでの 4 部から 3 部への昇格を果たしました。今年は、3 部定着はもちろんのこと、2 部昇格を目標としています。昨年昇格したばかりなのに今年も昇格がチームの目標なんて、と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、春に行った格上のリーグに所属する大学との練習試合では、これからの努力次第で 2 部昇格も実現可能だという手ごたえを部員は感じ取りました。それ

ほど今年のチームは充実しているのです。

今回頂いた援助金は、充実しているチームをさらに飛躍させるために何が最も必要であるかを、ミーティングを重ね、検討し利用させて頂く予定です。繰り返しにはなりますが、この度はありがとうございました。今後のラグビー部の活躍をご期待ください。

陸 上 部

生産システム工学課程 4 年 高島 悠

この度は我々陸上部に援助金を頂き、誠にありがとうございました。陸上部一同深くお礼申し上げます。援助金はスターティングブロック及びソフトハードルの購入に充てさせていただきました。練習用具の充実は技術向上だけでなく、部員へのモチベーションにもなるので、これからの練習に一層力を入れていけると思っています。

現在部員は、修士を含めて 16 名でその内 7 名が新入部員です。他の大学と比べると部員数は少ないですが、近年は積極的に大会に参加しており、その実績などからレベルは決して低くないと自負しています。今年も東国体や東海インカレ等の大会のほか、各々の部員の地元で行われる県選手権等にも参加し、入賞・優勝という結果を残しています。これも、部員の普段の努力があったからこそだと思います。これからも自己記録の更新や全国大会への出場等の目標を持って、日々精進していきたいと思っています。今後の陸上部の活躍にご期待ください。

武 道 部

電気・電子工学課程 3 年 来原 央

この度は同窓会より援助を頂き、誠にありがとうございました。武道部員一同、心よりお礼申し上げます。

武道部は主に剛柔流空手道と古武道の稽古を行っております。創部して 4 年という若い部ではありますが、博士、修士、学部を含む総勢 43 名の活気ある部です。

今年は、去る 7 月 31 日に、豊橋市民文化会館において、第 1 回豊橋技術科学大学武道部演武会「武道、始動!!」を開催致しました。部員一丸となって練習に励んだのは言うまでもありません。ただ、初めての大きな演武会でしたので、全で一から試行錯誤しながらの準備となりました。

費用も当初予定していた額を大きく上回り、部員1人1人の負担が大変大きくなってしまいました。そんな中、同窓会からご援助頂く運びとなり、演武会の内容をより充実させることができました。当日は、総入場者数300余名と多くの方に足を運んで頂き、さらに、翌朝(8月1日)の中日新聞に掲載されるなど、大成功を取めることが出来ました。

今回援助金は、試し割り物品の購入、プログラム代、アンケート用紙代等に当てさせて頂きました。

このように演武会が盛大に開催できましたのも、皆様のご援助あつてのことと存じます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



軽音学部

建設工学課程 3年 深谷 和彦

この度は、同窓会より軽音楽部に援助して頂きありがとうございました。今年度、軽音楽部では20人強の新入部員を迎え、総勢約60名という大人数で積極的に活動しています。私たちは授業後にバンドごとで部室に集まり、定期ライブのためにみな熱心に練習しています。定期ライブは新歓ライブに始まり、サマーライブ、技科大祭、クリスマスコンサート、追いコンの年5回です。その他にも、豊橋創造大学大学祭や東海地区国立大学文化祭豊橋周辺のライブハウスで演奏しています。また最近では、自分たちで曲を作って演奏するオリジナルバンドが増えており、学外のバンドと勝負をしたり、全国バンドコンテストに応募したりするなど、活動の幅を広げております。その中でも、技科大祭は一番大きなイベントであり、昨年度はライブの案内やピラ配りを積極的に行い、講義棟A-101が一杯になるほどのお客様にお越し頂きました。

今回、同窓会より頂いた援助金は、老朽化してしまった機材等に当てさせて頂きます。これからは、より一層感謝



の気持ちを持ち、より良い演奏をするよう全力を尽くす所存でございます。

今年度は、天候に恵まれず2年連続でできなかった技科大祭での野外ライブを実現すべく、準備を進めています。是非お時間がありましたら、軽音楽部の演奏を見に来てください。重ねてありがとうございました。

・～新団体紹介～

自動車研究部

機械システム工学課程 4年 黒川 玄樹

初めましてこんにちは、自動車研究部です。私たち自動車研究部は、今年の1月に創部し、修士2名、学部19名の計21名で意欲的に活動しております。

さて、私たちが部を建てた経緯についてご説明させて頂きます。大学ではものづくりの基礎となる理論について詳しく学びますが、その理論が実際のものづくりでどのように活かされるかについて学習する場はほとんどありません。そこで、自動車技術会主催の『全日本学生フォーミュラ大会』へ参加することで、レース車輛を一から設計し、部品の製作・組み立て、完成する為のマネジメントに至るまで、広い分野の技術と知識の獲得が図れると考えました。

しかし、部を運営する上で様々な問題が出てきます。一番の問題になっているのが、活動資金の問題です。車輛一台を製作するためには約300万円近くの資金が必要です。現在、武蔵精密工業(株)様、(株)グッド様、本田技研工業(株)様を主体に多くの企業に支援して頂いていますが、車輛完成金額にはまだ届いていません。そこで、同窓生の皆様にも、私たちの活動を支援して頂けたら幸いかと存じます。まだまだ、勉強不足な点が多くありますが、どうぞよろしくお願い致します。

＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

第 1 章 総則

- 第 1 条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第 2 条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第 3 条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第 2 章 事業

- 第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第 3 章 会員

- 第 5 条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第 4 章 組織

- 第 6 条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
 (2) 会長 1 名
 (3) 副会長 2 名 (庶務担当)
 (4) 理事 原則として各系 2 名
 (5) 顧問 若干名
 第 7 条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第 8 条 本会役員は任期は 2 年とする。但し留任は妨げないものとする。

第 9 条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第 5 章 役員

- 第 10 条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第 11 条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第 6 章 理事会

- 第 12 条 理事会は、第 6 条に定められた役員により構成される。
 第 13 条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第 14 条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第 15 条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第 7 章 総会

- 第 16 条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4 年に 1 回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第 17 条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第 18 条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

第 8 章 会計

- 第 19 条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第 20 条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000 円
 (2) 終身会費 10,000 円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第 21 条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第 22 条 本会の会計年度は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月末日に終る。

第 9 章 雑則

- 第 23 条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第 24 条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成 4 年 12 月 19 日の総会において会則改訂の承認を得て、平成 4 年 12 月 20 日から施行する。
- 2 平成 4 年度及び 5 年度在学学生は、第 20 条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。



「大学（企画広報室）から会員の皆様へのお知らせ」

企画広報室では、学内外向け広報誌「天伯」を発行しておりますが、2005年度から紙冊子による発行に代えて、ホームページ（<http://www.tut.ac.jp/>）にオンライン掲載することで、より多くの方たちに本学の新鮮な情報を提供できるようにいたしました。このたび同窓会様のご厚意により、オンライン広報誌初版となる「天伯」116号を同窓会サイト（<http://www.tut-ob.org/>）へ掲載して頂けることとなりました。また、本学の最新情報を広範にかつビジブルに提供するため、情報発信用メーリングリストを整備しております。

今後も充実した広報誌づくりを心掛けてまいりますので、会員の皆様のさらなるご理解とご協力をお願いいたします。

国立大学法人 豊橋技術科学大学 企画広報室
E-mail: kouho@office.tut.ac.jp